

明治三十九年十二月

訓令

大藏省第四十七號

鹽務統計表規則

三九七

現計額表

國庫債及交付金	國庫債及保管費	鹽試驗費	合計	備 考
□	□	□	□	(一) 會計年度ニ依リ五月末日ノ統計額ヲ 掲記スルモノトス

第三二

鹽受拂收入支

年 月 次	取 入			支
	一般運賃代金	特別運賃代金	追徴金	貯債金及ノ期入金
何 年 度	□	□	□	□
内 地 鹽				
四 月 月				
五 月 月				
、 計				
外 國 鹽				
、 計				
、 計				
、 計				
何 年 度				
(以下同上)				

明治三十九年十二月

訓令

大藏省第四十七號

鹽務統計表規則

三九八

計 算 表

交付金				出		備 考
計		諸 経 費		計	損引損益	
支出額	支出未済額	支出額	支出未済額			
□	□	□	□	□	□	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)過誤納、過誤拂等ハ算入セサル額ニ就キ掲上スルモノトス (三)差引損益欄ニハ其ノ年度分ノミニツキ計算掲上シ損金ハ赤字スルモノトス

第 三 三

盛 専 費

年 次	俸給及雑給	廳 費	補修費	和信及郵便費	旅 費	電報及電費	印刷名簿分費
何 年 度	□	□	□	□	□	□	□

明治三十九年十二月 訓令 大蔵省第四十七號 國務統計表編纂規則

未 現 在 額			備 考
証券	土地	計	
其他証券			(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)前年度ヨリノ超過ト本年度提供額トノ計ヨリ 解除額、代金充當額ヲ控除シタルモノハ年度 末現在額ニ符合スルモノトス (三)擔保殘額證明ニ係ル受拂ハ算入セサルモノト ス (四)本表ハ擔保價格ヲ記入スルモノトス

104

第三四

鹽 專 賣

年 次	歳 入						歳 出	
	鹽 專 賣 收 入		賭 收 入		代 理 費	年 費	貯 債 金	
	收入額	收入未納額	收入額	收入未納額			支出額	支出未納額
何 年 度								
前 年 度 分								
本 年 度 分								
計								
何 年 度								
(以下同上)								

明治三十九年十二月 訓令 大蔵省第四十七號 國務統計表編纂規則

105

度 末 現 在				備 考
有 價 証 券		土 地	計	
國債証券	其ノ他証券			
□	□	□	□	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)前年度ヨリノ越高ト本年度提供額トノ計ヨリ解除額、充當額ヲ控除シタルモノハ年度末現在額ニ符合スルモノトス (三)本表ニハ擔保價格ヲ記入スルモノトス

第三五

局 所 別	前 年 度 日 々 越 高				本 金 額
	金 額	有 價 証 券		土 地	
		國債証券	其ノ他証券		
何 年 度 何 局 直 轄 何 出 張 所 、 、 計 何 年 度 (以下同上)	□	□	□	□	□

年度末現在額				備 考
金 額	有 價 証 券		計	
	國債証券	其 他 証 券		
□	□	□	□	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)前年度ヨリノ越高ト本年度提供額トノ 計ヨリ解除額、充當額ヲ控除シタルモノ ハ年度末現在額ニ符合スルモノトス (三)本表ハ擔保價格ヲ記入スルモノトス

第三六

局 所 別	前 年 度 日 額 越 高				
	金 額	有 價 証 券		土 地	計
		國債証券	其 他 証 券		
何 年 度	□	□	□	□	□
何 局 直 轄 所、					
何 出 販 所、					
何 年 度					
(以 下 同 上)					

明治三十九年十二月 訓令 大藏省第四十七號 鹽務統計表帳調製規程

第三七

局所別	前年度日リ越高			本年度提供		
	金額	有價証券		金額	有價証券	
		國債証券	其他証券		國債証券	其他証券
計						
何年度						
何局直轄						
何出張所						
計						
何年度 (以下同上)						

漁獲物鹽藏用鹽賣渡請求擔保種

計	解除額			追徴金充當額		
	金額	有價証券		金額	有價証券	
		國債証券	其他証券		國債証券	其他証券
計						
何年度						
何局直轄						
何出張所						
計						
何年度 (以下同上)						

明治三十九年十二月 訓令 大藏省第四十七號 鹽務統計表帳調製規程

第三八					
年次	前年度より越				
	金 錢	有 價 證 券		土 地	計
		國債證券	其ノ他證券		
何年度 外國鹽 臺灣鹽					
何年度 (以下同上)					

外國鹽及臺灣鹽賣

本年度提供額							
金 錢	有 價 證 券			土 地	計	解 除	
	國債證券	其ノ他證券				金 錢	有 價 證 券
		國債證券	其ノ他證券				

第三九		鹽田自作小作					
局所別	鹽田所有者		自作者			小作	
	人員	段別	人員	益數	段別	人員	益數
何年度 何局直轄 何出張所、 計 何年度 (以下同上)	人	町	人	圓	町	人	圓

人員、段別表

者 段別	従業者			備考
	男	女	計	
町	人	人	人	
				(一) 従業者ヲ除クノ外他ノ年度末日現在ニ依リ記入スルモノトス
				(二) 自作兼小作者ノ段別ハ自作、小作分各區分ノ上相當欄ニ合算掲上シ人員ハ自作者ニ合算シテ其ノ段數ヲ内符表示スルモノトス
				(三) 自作者小作者ノ共同使用ニ係ル益數ハ首箇作者ノ部ニ合算シ小作者ノ部ニハ其ノ數ヲ赤字スルモノトス

第四〇 鹽田地價最				
局 所 別	最 高		最 低	
	場 所	段 金	場 所	段 金
何 年 度 何 局 直 轄 何 出 張 所 平 均 度 何 年 度 (以 下 同 上)				

高 最 低 表

局 所 別 鹽 地 價 平 均 段 金	備 考
	(一)段金ハ所轄内年度末日現在地價中最高最低ノ一筆ヲ選テ記入ス ルモノトス (二)總地價平均段金ハ所轄内ノ總段別ニ依リ算出スルモノトス

第四一		鹽田一段歩					
局所別	何年度 何局直轄 何田課所 平均 何年度 (以下同上)	上等		中等		下等	
		地價	價格	地價	價格	地價	價格

當賣買價格表			
標準地名			備 考
上	中	下	
			(一)等級ハ時價ニ依リ區分シ各等ノ標準トスルニ 足ルヘキモノヲ掲記スルモノトス (二)標準地名ハ大字漢名道ヲ掲記スルモノトス

第四二		鹽田一段歩					
局所別	上等			中等			下
	地價	貸賃價格		地價	貸賃價格		
		金額	種類數量		金額	種類數量	
何年度							
何局直轄							
何出張所							
平均							
何年度							
(以下同上)							

當貸賃價格表

等		標準地名	備	考
貸賃價格				
金額	種類數量			
		上		

- (一)等級ヲ定ムルニハ貸賃價格ノ物納ナルトキハ其ノ分量ノ多少ニ依リ金額ナルトキハ金額ノ多少ニ依ルモノトス
- (二)金額ヲ以テ貸賃價格ヲ定ムルモノハ種類數量關ニハ記入ヲ要セス
- (三)物品ヲ以テ貸賃價格ヲ定ムルモノハ其ノ仕拂時期ニ於ケル時價換算額ヲモ金額關ニ記入スルモノトス
- (四)標準地名ハ大字漢名迄ヲ記入スルモノトス

第四三		鹽 卸 賣 百							
調査地別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	
何年度 何市 何町 、 平均 何年度 (以下同上)									

斤 當 價 格 表					
十二月	一月	二月	三月	平均	備 考
					(一)其ノ月ニ於ケル五等鹽ノ平均價格ヲ 掲記スルモノトス (二)五等鹽ニ依リ雜キトキハ空欄ニ存シ 區クモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ 旨ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第四四		鹽小賣一							
調査地別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	
何年度 何市 何町村、 平均 何年度 (以下同上)									

斤當價格表

十二月	一月	二月	三月	平均	備考
					(一)其ノ月ニ於ケル五等鹽ノ平均價格ヲ 掲記スルモノトス
					(二)五等鹽ニ依リ難キトキハ空欄ニ存シ 置クモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ 旨ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第四五		鹽 小 賣 一 升							
調査地名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	
何年度 何市村、 平均 何年度 (以下同上)									

當 價 格 表					
十二月	一月	二月	三月	平均	備 考
					(一)其ノ月ニ於ケル五等鹽切拵ノ平均價 格ヲ掲記スルモノトス (二)五等鹽ニ依リ雜キトキハ空欄ニ存シ 區クモノトス此ノ場合ニ於テハ其ノ 旨ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第四六		鹽 生 産						
年 次	生 産							
	開田・築池・築井・修築ニ付スル費用 採掘ニ付スル費用 採掘ニ付スル費用	薪炭費	勞 工 費	銀 賃 費	公課者ハ地 代組合費等	包裝費	資本利子	
何 年 度 何 局 直 轄 自 小 何 出張所、 平 自 小 均 作 作								
何 年 度 (以下同上)								

費 表					
費		計	生産高	百斤當生産費	備 考
天ノ地貯費	貯留ニ要 スル費用				
			斤		(一)會計年度ニ依リ標準トスルニ足ルヘキ管内所在ノ中等鹽田ニ就キ調査スルモノトス (二)薪炭費算出ノ基礎トシタル燃料ノ種類並單價ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第四七 鹽製造石				
局 所 別	長州塊炭	九州粉炭	何	々
何 年 度	斤	斤	斤	斤
何 局 直 轄				
何 出 報 所				
何 年 度				
(以下同上)				

炭消費高表

計	備 考
斤	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス

第四八 鹽百斤當賠				
賠 償 區 域	一 等	二 等	三 等	四 等
何 年 何 月 何 日 何 局 何 直 轄 村 何 何 何 村 何 出 販 所	□	□	□	□

債 價 格 表	
五 等	備 考
□	(一)賠償價格ノ變更アリタルトキハ施行月日ヲ以テ全部改記シ其ノ事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス 但償初ノ分ハ抹消セサルモノトス (二)優等鹽、指定引渡鹽、撒鹽、等外鹽、洗炭副産鹽等ノ價格ハ備考ニ掲記スルモノトス

第九四		天 候			
年 月 次	天 候			雨 量 ミリメートル	
	晴	曇	雨		
何 年 度 四 月 月、計 五 月 月、計 六 月 月、計	日	日	日		
何 年 度 (以下同上)					

雨 量 表	
探 録 日 數	備 考
日	(一)管内主要ノ産地ニ於テ調査スルモノトス (二)天候ハ其ノ日ノ主タル状況ニ依リ記入スルモノトス

第五〇 鹽專賣法							
局所別	犯刑者總員 人	通告履行者 人	告 發				犯刑ノ心算ヲ 得ルモノ 人
			直ニ告發		通告不履行ニ付告發		
			有罪 人	不指刑・高額 及罰金 人	有罪 人	不指刑・高額 及罰金 人	
何年度							
何局直轄 何出張所							
計 何年度 (以下同上)							

違犯者表				
罰金	追徴金	没收品價格	犯刑處分費	備 考
■	■	■	■	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)犯刑總員欄ニハ其ノ年度中檢査セシ總數 ヲ掲ケ其ノ他ノ欄ニハ檢査年度ノ如何ニ 拘ハラス處分ノ結果ヲ掲クルモノトス (三)罰金、追徴金、沒收品價格ニシテ裁判所處 分ニ係ルモノハ各相當欄ニ外世スルモノ トス

鹽專賣法違犯者行為別人員表

政府ノ指定シタル 販賣場ニ於テハ 販賣シタルモノ	政府ノ指定シタル 販賣場ニ於テハ 販賣シタルモノ 又ハ政府ノ指定 シタル販賣場ニ於 テハ販賣シタルモノ	鹽又ハ鹹水製造 者ノ製造トシテ 販賣シタルモノ	鹽又ハ鹹水製造 者ノ製造トシテ 販賣シタルモノ 又ハ同一場所ニ於 テ相兼ネタルモノ	政府ノ指定シタル 販賣場ニ於テハ 販賣シタルモノ 又ハ政府ノ指定 シタル販賣場ニ於 テハ販賣シタルモノ	許可ヲ受ケ以テ 一月以ニ前ニ 申請セシメテ 製造ノ製造ヲ 止シタルモノ	鹽賣業者 ニシテ制限 ノ價格ヲ販賣 シタルモノ
人	人	人	人	人	人	人

鹽賣業者 ニシテ鹽 他物ヲ混合 シテ販賣シ タルモノ	鹽又ハ鹹水製造 者ノ製造トシテ 販賣シタルモノ 又ハ同一場所ニ於 テハ販賣シタルモノ	鹽又ハ鹹水製造 者ノ製造トシテ 販賣シタルモノ 又ハ同一場所ニ於 テハ販賣シタルモノ	合計	備考
人	人	人	人	(一)會計年度ニ依リ記入スルモノトス (二)通告處分履行者及裁判確定シタル者ノ人員ヲ編制スルモノトス (三)數即俱發處分ノ場合ニハ主タル一方ニ照會シ他ハ亦計スルモノトス

第五一

局所別	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ	政府ノ命ヲ受ケ スルシテ 外國ヨリ輸入 シ又ハ專賣法ヲ 施行セサル地 ヨリ移入シタル モノ
何年度 何局直轄 何出張所、 計	人	人	人	人	人	人
何年度 (以下同上)						

○大藏省勅令第四十八號

本年^{十二}月 大藏省勅令第四十七號鹽務統計臺帳調製規程第八條ニ據リ主稅局ニ提出スヘキ鹽務統計
臺帳謄本ハ別表ノ期限ニ依リ提出スヘシ

但表中期日ヲ示サ、ルモノハ提出スルヲ要セス

明治三十九年十二月十二日

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

鹽務局

(別表)

鹽務統計臺帳謄本提出期限表

表名	提出期限
第一 管區表	異動ノ時々
第二 鹽製造人員、場數、製造高表	同
第三 鹽製造人員、場數、製造高月別表	同
第四 鹽製造方法別製造高表	翌年度四月末日
第五 鹽再製高表	同
第六 鹹水製造人員及製造高表	同
第七 鹽製造高等級別表	同
第八 鹽製造高等級月別表	同
第九 鹽再鑑定成績表	翌年度四月末日
第一〇 鹽製造高別人員表	同

- 第一一 內地鹽受入高表
- 第一二 內地鹽受入高月別表
- 第一三 鹽包裝別區分表
- 第一四 外國鹽輸入高表
- 第一五 臺灣鹽移入高表
- 第一六 鹽回送拂出高表
- 第一七 回送鹽受入高表
- 第一八 鹽拂出高表
- 第一九 鹽拂出高月別表
- 第一〇 特別定價賣渡鹽用途別區分表
- 第二一 特別定價賣渡鹽用途別區分月別表
- 第二二 鹽賣渡高別人員表
- 第二三 鹽損害高表
- 第二四 鹽賣渡代金即納及延納高表
- 第二五 鹽賣渡代金即納及延納高月別表
- 第二六 鹽專賣交付金下付高表
- 第二七 鹽專賣交付金下付高月別表
- 第二八 鹽專賣追徵金額表

鹽年度五月十五日

鹽年度四月末日

鹽年度五月十五日

鹽年度四月末日

同

- 第二九 鹽專賣追徵金額月別表
- 第三〇 鹽專賣調定額表
- 第三一 鹽受拂收入支出金額表
- 第三二 鹽受拂收入支出金額月別表
- 第三三 鹽專賣費現計額表
- 第三四 鹽專賣計算表
- 第三五 鹽賣渡延納代金擔保種別表
- 第三六 鹽回送賣渡請求擔保種別表
- 第三七 漁獲物鹽藏用鹽賣渡請求擔保種別表
- 第三八 外國鹽及臺灣鹽賣渡請求擔保種別表
- 第三九 鹽田自作、小作、人員、段別表
- 第四〇 鹽田地價最高最低表
- 第四一 鹽田一段步當賣買價格表
- 第四二 鹽田一段步當賣買價格表
- 第四三 鹽卸賣百斤當價格表
- 第四四 鹽小賣一斤當價格表
- 第四五 鹽小賣一升當價格表
- 第四六 鹽生產費表

同

鹽年度七月十五日

鹽年度五月十五日

同

鹽年度七月十五日

鹽年度四月末日

同

同

同

同

同

同

同

同

監兵費	俸給及諸給	看護費
	△ 〓	△ 〓
	與	與

獄出臨時部

款	項	目	節
測証費	俸給及諸給	△ 〓	
	△ 〓	與	
	測量事業費	△ 〓	
	測量事業費	△ 〓	
		△ 〓	慰勞金

監獄

○司法省訓令第二號

明治二十六年內務省訓令第二十九號中假出獄證書左ノ通改正ス

明治三十九年十二月四日

司法大臣松田正久

假出獄證書(用紙原紙紙質適宜)

表 面

假出獄證書

府縣 郡市町村 大字
 屬籍(本籍地並ニ特別監視執行地)
 氏 名
 年 月 日生

罪名(裁判官渡書ニ依ル)
 刑名刑期(主刑附加刑トモ記入)
 明治 年 月 日 旨渡明治 年 月 日 主刑満期
 在監中行狀善其改悛ノ狀顯著ナルヲ以テ明治 年
 月 日ヨリ明治 年 月 日ニ至ル 殘期 年 月
 日間假出獄ヲ許シ此證書ヲ附與ス
 明治 年 月 日

某監獄
 典獄氏 名印

五寸五分

寸 八

裏 面

一 假出獄中は特別監視に附せらるべきものなり
 一 特別監視中は刑法附則第四十四條に定められたる事項を遵守すべきは勿論警察官の命令は總て遵守せらるべきに注意し謹慎すべきものなり
 一 假出獄中重罪輕罪を犯すときは直に出獄を停め其出獄中の日数は刑期に算入せらるべきなり

林區署

農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第三十七號
森林主事教習規則左ノ通定ム

明治三十九年十二月七日

森林主事教習規則

- 第一條 大林區署ニ於テハ本則ニ依リ森林主事ノ教習ヲ爲スヘシ
 教習ニ關スル講師ハ大林區署員中ニ就キ大林區署長之ヲ命スヘシ
- 第二條 森林主事ノ教習ヲ分テ甲種教習及乙種教習ノ二種トス
 甲種教習ハ大林區署長ニ於テ必要ト認メタル森林主事ニ林務ヲ練習セシムル爲之ヲ行フモノトス
- 乙種教習ハ新ニ任用シタル森林主事ニ林務ヲ修得セシムル爲之ヲ行フモノトス
- 第三條 甲種教習ハ職務ノ餘暇ニ於テ之ヲ行フヘシ其ノ定員ハ一大林區署二十名以内トス
- 第四條 新ニ任用シタル森林主事ニハ必ス乙種教習ヲ行フヘシ其ノ期間ハ一回九十日以上トス
 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ教習ノ全部ヲ省略スルコトヲ得
- 一 東京帝國大學農科大學林學實科ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 官公立ノ專門學校林學科ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 農商務省山林局林業講習所ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 甲種農業學校林學科ノ卒業證書ヲ有スル者
 - 一 本則ニ依ル乙種教習ノ終末試験合格證書ヲ有スル者
 - 一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ教習ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
 - 一 文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者
 - 一 乙種農業學校林學科ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第五條 教習科目ヲ分テ學科及實科ノ二種トス

第六條 教習スヘキ學科左ノ如シ

甲種教習

大林區署長其ノ管内ノ情況ヲ參酌シ其ノ都度之ヲ定ム

乙種教習

一 林學通論

一 樹木材積ノ計算種々ノ距離ニ於テ植栽スルニ必要ナル苗木數ノ計算簡易ノ器械ヲ以テスル面積勾配及樹高ノ測定

一 內國主要樹種ノ造林斫伐ニ關スル方法要件及其ノ用途、工藝的性質並應用ノ程度

一 林業及農業ニ利用スル重ナル土性ノ種別

一 森林作業ノ種類、更新ノ方法、苗木養成及樹木ノ植付及其ノ手入ニ關スル心得

一 木材運搬ノ方法、裝置及運搬上ノ心得
一 種子ノ採取、貯藏、樹皮ノ剝取、樹脂ノ採取、菌草ノ養成及採取、落葉落枝下草ノ採取、放牧、木炭ノ製造及之ニ伴フ副産物ノ製造等ニ關シ心得ヘキ要領

一 森林被害豫防ノ方法並應急防遏手段

一 職務執行上必要ナル法規ノ要領

一 諸手續報告、告發及私訴提起等ニ關スル書類ノ作成法

一 簡易ナル圖面作成法

一 負傷疾病應急手段

一 前各號ノ外大林區署長ニ於テ特ニ必要ト認ムル事項

第七條 實科ハ學科ニ於テ教習シタル事項ニ就キ之ヲ實地ニ應用シテ教習スルモノトス

第八條 甲種教習ヲ終リタルトキハ修了證書ヲ附與スルコトヲ得

第九條 乙種教習ノ終期ニ於テ學科及實科ニ就キ終末試験ヲ施行ス

第十條 終末試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ附與ス

第十一條 新ニ任用シタル森林主事ハ前條合格證書ヲ有スルニ非サレハ保護區官舎詰ヲ命スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ限り臨時保護區官舎詰ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第四條第二項ニ依リ教習ノ全部ヲ省略シタル者ニハ之ヲ適用セス

第十二條 大林區署長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ森林主事特別任用規則第十三條但書ニ依ル雇員ニ對シ乙種教習ヲ行フコトヲ得

第十三條 終末試験ニ合格セサル森林主事又ハ雇員ニハ更ニ次期ノ教習ヲ命スヘシ

次期ノ終末試験ニ合格セサルトキハ再ヒ教習ヲ命スルコトヲ得ス

第十四條 本則施行ノ爲必要ナル細則ハ經伺ノ上大林區署長之ヲ定ムルコトヲ得

附則

第十五條 本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 明治三十一年十一月一農商務省訓令第三十八號林務講習規則ハ之ヲ廢止ス

第十七條 本令施行後一箇年間ハ第四條ノ教習期間ヲ六十日ニ短縮スルコトヲ得

○農商務省訓令第三十八號

明治三十九年農商務省訓令第四號科目表中ヘ左記ノ通増設ス

山林局 大林區署 沖繩縣

明治三十九年十二月十日

農商務大臣松岡康毅

歳出臨時部

△印増設

款	項	目	節
足尾國有林復舊費	足尾國有林復舊費	事業費	
		△給與	
山處分調査費	山處分調査費	事業費	
		△給與	

○農商務省訓令第三十九號

山林局 大林區署

明治三十九年農商務省訓令第四號科目表中歳出經常部森林費ノ款事業費ノ項林產物處理費ノ目ノ末位ニ給與ノ節ヲ設置ス

明治三十九年十二月十九日

農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第四十號

林區署

明治三十九年九月農商務省訓令第三十四號製材職工定夫規則中左ノ通改正ス

明治三十九年十二月二十日

農商務大臣松岡康毅

第四十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

夜間作業ヲ爲ス者ニ支給スル日給額ハ前項ノ定額ニ二割以內ヲ増加スルコトヲ得

○農商務省訓令第四十一號

大林區署

國有林事業豫定案規程左ノ通相定ム

明治三十九年十二月二十九日

農商務大臣松岡康毅

國有林事業豫定案規程

第一章 編成 確定

第一節 通則

第一條 國有林事業豫定案(以下單ニ豫定案ト稱ス)ハ左ノ九種ニ別テ之ヲ編成スヘシ

- 一 主產物處分豫定案
- 二 副產物處分豫定案
- 三 造林第一部豫定案
- 四 造林第二部豫定案
- 五 造林第三部豫定案
- 六 造林第四部豫定案
- 七 作業第一部豫定案

八 作業第二部豫定案

九 作業第三部豫定案

第二條 豫定案ノ様式ハ別紙ノ定ムル所ニ依ル

第三條 造林第二部、造林第四部、作業第二部及作業第三部ノ豫定案ハ大林區署長之ヲ編成スヘシ但シ小林區署長ヲシテ編成セシムルコトヲ妨ケス

主産物處分、副産物處分、造林第一部、造林第三部及作業第一部ノ豫定案ハ小林區署長ヲシテ之ヲ編成セシムヘシ但シ大林區署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ自ラ之ヲ編成スヘシ

第四條 豫定案所定以外ニ事業執行ノ必要アル場合ニ於テハ本規程ニ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外共事業ニ對シ前條ニ依リ別ニ追加豫定案ヲ編成スヘシ

追加豫定案ノ記入番號ハ現豫定案ノ番號ヲ受ケ繼グヘシ

第五條 豫定案ハ毎年度前之ヲ編成スヘシ但シ特別經營造林豫定案ハ山林局長ノ通牒アリタル後之ヲ編成スヘシ

追加豫定案ハ必要ノ都度之ヲ編成スヘシ

第六條 大林區署長ハ主産物處分、副産物處分及造林各部ノ豫定案ニ付テハ各總括表ヲ編製シ其ノ他ノ各豫定案ニ付テハ各通計ヲ爲シ其ノ取纏メヲ爲スヘシ但シ豫定案ニ定メタル事業一大林区ヲ通シ一箇所ニ止マルモノニ付テハ此限リニ在ラス

前項各豫定案中總括表ヲ編製スルモノニシテ若ルシキ事業又ハ新規ナル事業ノ施行ヲ豫定セルモノアルトキハ其ノ箇所、數量、金額、其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ總括表ノ備考欄ニ掲記スヘシ第七條 豫定案ハ小林區毎ニ(林産物品貯藏所及製材)之ヲ編成シ前條總括表ノ編製及前條ノ通計

ハ一大林区ヲ通シ之ヲ爲スモノトス

第八條 大林區署長ハ前年度四月十五日迄ニ豫定案ヲ進達シ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ第六條

ニ依リ總括表ノ編製ヲ要スル豫定案ニ付テハ其ノ總括表ノミヲ進達シ豫定案ノ進達ニ代フヘシ特別經營造林豫定案ニ關シ前項ノ期限ハ前年度十二月末日迄トス

追加豫定案ニ付テハ前二項ノ期限ニ拘ハラズ其ノ都度認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 前條ニ依リ進達スル豫定案又ハ總括表ニハ第二十七條ノ書類及圖書第三十五條ノ説明書、第二十九條第五號但書ノ種目別經費總括表、第四十二條ノ年度區分概定表及第四十六條第七號ノ種目別經費總括表ヲ添付スヘシ

第十條 造林各部又ハ作業各部ノ追加豫定案ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ第八條第三項ノ認可申請ヲ要セス大林區署長限リ之ヲ確定スルコトヲ得

一 造林各部若ハ作業各部ヲ通シテ該豫定案實行ノ結果ニ依リ生シタル剩餘金ヲ以テスルモノ
二 造林各部若ハ作業各部ヲ通シテ該豫定案ノ變更増減ニ依リ生シタル過剩ノ經費又ハ不實行ノ經費ヲ以テスルモノ

第十一條 前年度不實行ニ係ル主産物處分豫定案ニ變更増減ヲ加フルコトナクシテ之ヲ當年度ニ於ケル追加豫定案トナサムトスルトキハ第八條第三項ノ認可申請ヲ要セス大林區署長ニ於テ之ヲ確定スヘシ

第二節 主産物處分豫定案

第十二條 本豫定案ハ作業ノ資料ニ供スヘキ立木竹ノ斫伐ヲ除クノ外各年度主産物ノ處分ヲ豫定スルモノトス

第十三條 本豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

- 一 作業級毎ニ口座ヲ設ケ箇所毎ニ記入番號ヲ附シ樹種毎ニ斫伐豫定ヲ分記スルコト但シ事業區又ハ豫察事業區内ニ包容セサル箇所ニ於テ斫伐ヲ豫定セル場合ニ在リテハ最後ニ別ニ雜ノ口座ヲ設ケ作業級ニ準スヘシ
- 二 前號作業級ノ口座ハ羅馬數字ヲ以テ番號ヲ附シ其ノ樹種、作業種及輪伐齡ヲ掲ケ且前更作業ニ在リテハ輪伐齡ノ次ニ更新期、擇伐作業ニ在リテハ輪伐齡ノ前ニ回歸年ヲ記入シ中林作業ニ在リテハ上木及下木ニ付キ二段ニ輪伐齡ヲ記載スルコト
- 三 施業案編成濟ノ箇所ニ付テハ國郡市町村欄ニ事業區名ヲ記載スルコト
- 四 面積ハ主伐及間伐共其ノ作業ノ如何ニ拘ラス伐採區域面積ヲ掲クルコト但シ前更作業或擇伐作業ニ在リテハ伐採區域内ノ總蓄積ニ對スル伐採材積歩合、竹林並間伐ニ在リテハ伐採區域内ノ總本數ニ對スル伐採本數歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ
- 五 材積中用材ハ尺ノ薪材ハ棚、根株ハ尺ノ若ハ箇、枝條粗朶及竹ハ束ヲ以テ單位トスルコト但シ束ハ三尺細メタルヘシ
材積及數量ハ四捨五入ヲ以テ單位ニ止メ、價格ハ總額ニ於テ圓位未滿ヲ切捨テ圓位ニ止ムルコト
- 六 同一箇所ニ於テ二箇以上ノ樹種ヲ斫伐スル場合ハ樹種毎ニ其ノ面積、材積及價格ヲ分記スルコト但シ面積ハ各樹種混雜ノ歩合ニ依リ算出スヘシ
- 七 主伐若ハ主伐ニ附帶シテ生スル粗朶、枝條、根株等ハ主伐欄中共用途ニ依リ用材又ハ薪材欄ニ掲記シ間伐若ハ間伐ニ附帶シテ生スル粗朶、枝條、根株等モ亦之ニ準シテ掲記スルコト但シ立木ト同時ニ處分セサルモノハ總テ間伐欄ニ掲記スヘシ

第十四條 總括表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

- 一 前條第十號ノ作業級小計ヲ小林區毎ニ移記シ其ノ記入番號ハ一大林區ヲ通シテ作業級毎ニ設クルコト
- 二 斫伐箇所數欄ニハ各作業級ニ於ケル斫伐箇所數ヲ掲記スルコト
- 三 樹種欄ニハ各作業級ニ於テ斫伐スヘキ樹種ヲ數量ノ順位ニ依リ一行内ニ列記スルコト
- 四 小林區毎ニ計ヲ爲シ其ノ次行ニ前條第十一號ノ部分木官收分又ハ被害木見積額ヲ掲記シ合計ヲナスコト
- 五 各小林區ヲ通シテ總計ヲ爲シ作業級ノ斫伐豫定ニ對シ樹種別再掲ヲ爲スコト
- 六 前號樹種別再掲ノ次行ニ部分木官收分又ハ被害木見積額ノ總額ヲ掲記シ之ヲ加算シテ通計
- 八 施業案編成既濟ノ箇所若ハ施業案編成未濟林取扱準則ニ依リ調査ヲ終了シタル箇所ニ於ケル斫伐ニシテ所定ノ年伐額ニ比シ著ルシキ差違ヲ生スルモノアルトキ又ハ前記ノ箇所以外ニ於テ斫伐ヲ要スルモノアルトキハ備考欄ニ其ノ理由ヲ記載スルコト
- 九 年期賣拂ヲ爲サトスルモノ若ハ其ノ契約中ニ係ルモノ又ハ前年度ニ比シ價額ノ著シク異動スルモノ其ノ他特殊ノ事項ニ付テハ備考欄ニ於テ相當ノ説明ヲ記載スルコト
- 十 作業級毎ニ小計ヲ爲シ一小林區ヲ通シテ計ヲ爲シ樹種別再掲ヲ設クルコト
- 十一 部分木官收分又ハ被害木ニシテ其ノ箇所ヲ豫定シ能ハサルモノノ見積額ハ各一括シテ樹種別再掲ノ次行ニ記入シ合計ヲナスコト但シ部分木ノ民收ニ屬スル分ハ備考欄ニ記載スヘシ
- 十二 社寺保管林又ハ市町村委託林等ニシテ譲渡ヲ爲スモノハ其ノ面積、數量等ヲ朱書スルコト

ヲナスコト

第三節 副産物處分豫定案

第十五條 本豫定案ハ各年度副産物ノ處分ヲ豫定スルモノトス

第十六條 副産物ヲ類別シテ左ノ十二類トス

第一類 樹皮主産物ノ處分ニ附帯シテ生

第二類 樹實

第三類 樹葉

第四類 脂液

第五類 柴草主林木トシテ經營ノ見込アルモノ及副木トシテ特ニ養成スヘキモノハ獵主産物トシテ本類以外トス

第六類 蔬菜

第七類 菌蕈

第八類 製品總括表ニ在リテハ細考欄ニ主要ナルモノ、品名ヲ記載スヘシ

第九類 藥料

第十類 石類

第十一類 土類

第十二類 雜總括表ニ在リテハ細考欄ニ主要ナルモノ、品名ヲ記載スヘシ

第十七條 本豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 數量ハ左ノ單位ヲ用フルコト

第一類第三類又ハ第五類ニ屬スルモノハ束(三尺)又ハ貫但シ第一類ニ屬スルモノハ間又ハ

坪ヲ用フルコトヲ得ヘシ

第二類ニ屬スルモノハ石又ハ貫

第四類第六類第七類第八類又ハ第九類ニ屬スルモノハ貫但シ油類ハ石第十類ニ屬スルモノ

ハ切但シ轉石ハ箇

第十一類ニ屬スルモノハ坪

第十二類ニ屬スルモノハ竹皮筍ニ在リテハ貫竹枝ニ在リテハ束(三尺)其ノ他ニ在リテハ別

ニ單位ヲ定メス

二 種目欄ニハ各副産物ノ名稱ヲ記載スルコト

三 面積ハ種目毎ニ共採收區域面積ヲ記載スルコト

四 年期拂下中ノモノハ備考欄ニ其期限ヲ記載スルコト

五 市町村委託林ニシテ讓渡ヲ爲スモノハ其面積及數量ヲ朱書スルコト

第十八條 總括表ハ小林區毎ニ各類別ノ合計ヲ掲ケ一大林區ヲ通シテ其通計ヲ爲スヘシ但シ第八

條但書ニ依リ當省ヘ進達スルモノハ一大林區ヲ通シタル各類別ノ數量及價額ノ總計ヲ掲記スル

ニ止メ小林區毎ニ分記スルヲ要セス且平均單價ノ記入ハ之ヲ省略スルコトヲ得

總括表ニ於ケル數量ハ四捨五入ヲ以テ單位ニ、價額ハ圓位未滿ヲ切捨テ圓位ニ止ムヘシ

第四節 造林第一部豫定案

第十九條 本豫定案ハ各年度植栽ニ關スル事業ノ施行ヲ豫定スルモノトス

第二十條 造林第一部ヲ類別シテ左ノ項目ニ別ツ

第二項 人工植栽

- 第一目 新植
- 第二目 補植
- 第三目 手入
- 第四目 雜
- 第二項 天然生育
 - 第一目 下種
 - 第二目 補植
 - 第三目 手入
 - 第四目 雜
- 第三項 砂防植栽
 - 第一目 砂防工
 - 第二目 修繕
 - 第三目 新植
 - 第四目 補植
 - 第五目 手入
 - 第六目 雜
- 第四項 苗圃
 - 第一目 播種(種子採取又ハ購入ヨリ第一回)
床替前マケノ事業ヲ包含ス
 - 第二目 床替(第一回床替ヨリ林地移植前マケノ)
事業ヲ包含ス 挿穂ハ床替ニ準ス

- 第三項 雜(器具 器械 購入 修繕 灌漑 築渠 設修繕 番)
- 第五項 防火線
 - 第一目 固定防火線
 - 第二目 修繕
 - 第三目 臨時防火線
 - 第四目 雜
- 第二十一條 本豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 一 樹種混淆スル場合ニ於ケル新植、下種、補植又ハ手入ハ其ノ面積以下各所要種目ヲ樹種毎ニ分記スルコト
 - 二 補植又ハ手入ハ樹種又ハ新植若ハ下種年度ノ異ナル毎ニ、播種又ハ床替ハ樹種又ハ播種年度ノ異ナル毎ニ其ノ面積以下各所要種目ヲ列記スルコト
 - 三 伐採跡地ノ新植又ハ下種ハ其ノ伐採年月、補植又ハ手入ハ其ノ新植若ハ下種年月、床替ハ其ノ播種年月ヲ記載スルコト但シ補植、手入又ハ修繕ノ回数ハ備考欄ニ記載スヘシ
 - 四 面積ハ補植又ハ手入ニ在リテハ其ノ區域全面積、天然生育ニ在リテハ生育面積ヲ記載スルコト
 - 五 種目ハ種子、苗木、運搬、人足、雜品、肥料、器具、土地、家屋等トシ左ノ單位ヲ用フルコト
種子ハ石、苗木ハ本、運搬ハ駄又ハ貫、人足ハ人、雜品ノ杭、竹ハ木又ハ束、蒾、箕等ハ枚、繩、藁ハ貫、束、房、肥料ハ人糞ハ荷、藁、油、糞、灰等ハ貫、草、落葉等ハ束又ハ貫、器具ハ箇、挺、木等土地ハ町、家屋ハ棟

六 摘要欄ニハ左ノ事項ヲ記載スルコト

種子ノ產地

苗木ノ產地及苗齡

運搬ノ里程及一里當リ經費

人足ノ種類及其ノ功程

雜品、肥料、器具ノ名稱、雜品ノ用途、器具新調修繕ノ區別、借地ノ地目、借家ノ種類

防火線ニ關シテハ延長、幅及面積

七 義務、補植、又ハ雜草木ノ賣却等ニヨリ手入ノ目的ヲ遂クルモノ等經費ヲ要セサルモノハ其ノ事由、砂防工施行地若ハ地拵ヲ施行セル箇所ニシテ後年度ニ於テ苗木植栽ヲ施行スルモノハ其ノ事由及植栽年度ヲ備考欄ニ記載スルコト

八 種子、苗木、雜品等ニシテ前年度ノ購入ニ係ルモノハ其ノ價額ヲ朱書スルコト

九 林地ニ直接播種スルモノハ人工植栽ニ在リテハ新植ニ準スルコト

十 砂防工ノ種類ハ樹種ニ準スルコト

十一 事業毎ニ記入番號ヲ付シ記入番號毎ニ小計、目毎ニ計、項毎ニ合計ヲ爲シ各項ノ記載ヲ終リテ總計ヲ爲シ最尾ニ項目別ヲ以テ樹種別再掲ヲ設クルコト但シ樹種別再掲ニ於テモ計、合計及總計ヲ爲ス等其ノ纏メ方本文ニ同シ

二十二條 砂防工又ハ其ノ修繕ニハ工費計算書及單價明細表ヲ添付スヘシ

二十三條 總括表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 第二十一條第十一號ノ樹種別再掲ヲ小林區毎ニ移記シ其ノ記入番號ハ一大林區ヲ通シ樹種

別再掲ヲ設クルコト

二 小林區毎ニ總計、一大林區ヲ通シテ總計ヲ爲シ最尾ニ第二十一條第十一號ト同法ヲ以テ樹種別再掲ヲ設クルコト

第五節 造林第二部豫定案

第二十四條 本豫定案ハ各年度ノ運搬設備、貯水場設備並雜工等ノ工事ニ關スル事業ヲ豫定スル

モトス

第二十五條 造林第二部ヲ類別シテ左ノ項目ニ別ツ

第一項 林道

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜

第二項 河川

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜

第三項 貯水場

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜

第四項 貯水場

第一目 設計

第二目 新設

第三目 修繕

第四目 雜

第二目 設備(特別經營部ニ在リテハ)

第四項 雜工

第一目 竹林蒔植

第二目 其他

第二十六條 本豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 林道又ハ河川ニ關シテハ其ノ施工ノ起終兩點ノ位置ヲ位置欄ニ記入スルコト

二 林道、河川又ハ貯水場ニ關シテハ利用ノ目的ニ依ル區別雜工ニ關シテハ工事ノ種類ヲ種類欄ニ記入スルコト

三 敷置ノ單位ハ延長ニ在リテハ間、其ノ他ノ尺度ニ在リテハ尺、面積ニ在リテハ坪、容積ニ在リテハ立坪ヲ用フルコト

四 種類毎ニ記入番號ヲ付シ項毎ニ計ヲ爲シ一小林區ヲ通シテ合計ヲ爲スコト

第二十七條 造林第二部豫定案ニハ豫算明細書ヲ添付スヘシ

各設計ニハ豫察調書、各新設ニハ計劃說明書及設計ニ關スル圖書ヲ添付スヘシ

第二十八條 總括表ハ造林豫定案第二部ヨリ項別ヲ以テ各事業ヲ移記シテ之ヲ調製シ事業毎ニ各記入番號ヲ付シ項毎ニ計ヲ爲シ一大林區ヲ通シテ通計ヲ爲スヘシ

一 事業ニシテニ小林區以上ニ跨ル場合ニ於テハ小林區名稱ニ關係小林區署名ヲ追記スルコト

第六節 造林第三部豫定案

第二十九條 本豫定案ハ各年度成林撫育事業ノ施行ヲ豫定スルモノトス

第三十條 造林第三部ヲ類別シテ左ノ項目ニ別ツ

第一項 成林撫育

第一目 掃除伐

第二目 間伐(收益ノ目的ヲ以テ研伐スルモノハ作業豫定案第一節ニ入レ木目以外トス)

第三目 枝打

第四目 蔓伐

第五目 倒木起

第六目 雜(天災及動物ノ豫防驅除等直接撫育ニ必要ナルモノ)

第三十一條 本豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 疎密度ハ一町步當リ本數ヲ以テ示スコト

二 施業欄面積ハ區域面積、程度ハ掃除伐及間伐ニ在リテハ伐採スヘキ一町步當リ本數、枝打ニ在リテハ除却スヘキ枝ノ階段數若ハ幹部ノ長ヲ樹冠ノ全長ニ對シテ示シタル分數、倒木起シニ在リテハ起スヘキ一町步當リ本數ヲ掲グルコト

三 箇所毎ニ記入番號ヲ付シ樹種、林種毎ニ小計、目毎ニ計ヲ爲シ項ノ記載ヲ終リテ共ノ合計ヲ爲スコト但シ目ニ屬スルモノ只一樹種林種ナルトキハ小計ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條 總括表ハ前條第三條ノ小計、及合計ヲ移記シテ之ヲ調製シ小林區毎ニ合計ヲ爲シ一大林區ヲ通シテ通計ヲ爲シ末尾ニ目別ヲ以テ樹種林種別再掲ヲ爲スヘシ

第七節 造林第四部豫定案

第三十三條 本豫定案ハ各年度林業試驗ノ施行ヲ豫定スルモノトス

第三十四條 造林第四部ノ類別項目ハ明治三十六年十月本省達第一八〇五號第六條ニ依ルヘシ

第三十五條 造林第四部豫定案ニハ豫定案ノ記載ノミニテ明カナラサルモノハ別ニ試驗方法ニ關スル説明書ヲ添付スヘシ

第三十六條 木豫定案ハ試驗種類毎ニ小計、目毎ニ計、項毎ニ合計ヲ爲シ一小林區ヲ通シテ總計ヲ爲シ之ヲ繼ムヘシ

第三十七條 總括表ハ造林第四部豫定案ヨリ目別ヲ以テ各試驗種類ヲ移記シテ之ヲ編製シ(經費ハ合計ヲ)試驗種類毎ニ記入番號ヲ付シ目ニ計ヲ爲シ項ニ合計ヲ爲シ一大林區ヲ通シテ總計ヲ爲スヘシ

第八節 作業第一部豫定案

第三十八條 木豫定案ハ伐木作業、造林作業又ハ其ノ作業場ヨリ作業第一次終了地點タル貯藏所(林産物品會計)ニ至ル迄ノ運材事業施行及其木竹材ノ處分ヲ豫定スルモノトス
造林ニ附帶シテ生スル樹皮及屑木ハ造林ニ準シ取扱フモノトス

- 第二十九條 木豫定案ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 一 作業箇所毎ニ記入番號ヲ附シ樹種毎ニ斫伐及生産ノ豫定ヲ分記シ箇所毎ニ計ヲ爲シ各小林區ニ合計ヲ爲スコト
 - 二 施業案編成済ノ箇所ニ在リテハ國郡市町村欄ニ事業區名ヲ記シ事業區若ハ豫察事業區内ニ包含セサル箇所ハ作業級ノ欄ニ雜ト記入スルコト
 - 三 作業箇所ニ於テ直ニ小仕成ヲ行フトキハ其ノ粗材ノ數量、單價及粗材單位ニ對スル生産量ヲ備考欄ニ記載スルコト

四 作業目的欄ニハ箇所毎ニ販賣ノ目的(例令ハ普通販賣、委託販賣、製材原料等)ヲ記入スルコト

五 經費ハ樹種材種毎ニ豫定シ(必要ナキトキハ樹種材種毎ニ分記スルニ及ハス)科目欄ニ經費科目、種目欄ニ物品其ノ他ノ種類名ヲ記入シ節ニ小計、目ニ計ヲ爲スコト但シ第八條ニ依リ本豫定案ヲ當省へ進達スル場合ニ於テ一大林區ヲ通シ作業箇所二箇所以上ナルトキハ各箇所ニ於ケル種目ノ記入ヲ省略スルコト但シ省略セタル種目ニ付テハ別ニ一大林區ヲ通シテ作業第一部ニ要スル經費ヲ種目毎ニ合計シ豫定案附屬種目別經費總括表ヲ作り提出スヘシ

六 經費用途種目ハ「伐木造材」、「搬出」及「共通」ノ三種目ニ別テ左ノ區別ニ依ルコト
「伐木造材」 立木竹ノ伐倒、枝打、玉切、角取、造材ノ検査、斫伐箇所ニ於ケル卷立、木寄等搬出ニ引續ク爲ス迄ニ要スル費用
「搬出」 橋出シ、水馬出シ、滑道搬出、管流、筏流等ニ依リ造材木ヲ該事業第一次終了地點タル貯藏所迄搬出スル爲ニ要スル費用

七 「共通」 前記兩種目ノ事業ニ通シテ要スル雜役夫、器具、交消品、旅費等
生産ノ全部翌年度以降ニ屬スルモノナルトキハ生産各欄ノ事項ハ之ヲ朱書シ生産當年度及翌年度以降ニ跨ルモノナルトキハ當年度ノ分ハ墨書シ翌年度以降ノ分ハ朱書スルコト
經費ハ作業翌年度以降ニ結了スルモノト雖モ其ノ結了迄ノ全額ヲ豫定シ當年度分ト翌年度以降ノ分トハ之ヲ區別シ當年度分ハ種目ヲ分チテ墨書シ翌年度以降ノ分ハ節毎ニ一括シ小

計ノ行ニ於テ當年度ノ小計ノ下ニ併記スルコト但シ此ノ場合ニ於テ第四十二條年度區分概
 定表ノ金額ト一致スルヲ要ス

八 前年度以前ノ著手箇所ニシテ當年度以降引繼キ施行スルモノナルトキハ國郡市町村乃至面
 積欄ノ各事項ハ之ヲ朱書シ其ノ他ハ前號ニ依リ當年度以降ノ功程、經費ヲ記載シ且前年度
 以前ノ功程、經費ハ其ノ合計ヲ合計行ノ備考欄ニ記載スルコト

九 各小林區署ニ於テ作業箇所ヲ限ラス各箇所ヲ通シテ要スル經費ニ關シテハ各作業箇所記載
 ノ後國郡市町村欄ニ「各所共通」ト記載シテ各欄ニ相當ノ事項ヲ記入シ之ヲ加算シテ各小林
 區ノ合計ヲ爲スコト

十 作業箇所毎ニ第四十一條ノ收支ノ比較及損益歩合ヲ備考欄ニ記入シ且經費用途種目別各材
 積當リヲ記入スルコト但シ各材積當リ經費ハ二箇以上ノ樹種ヲ斫伐スル箇所ニ對シ必要ナ
 キトキハ樹種毎ニ分算スルヲ要セス

十一 第九號ニ依ル各小林區ノ合計ハ之ヲ通シテ一大林區ノ總計ヲ爲スコト

十二 第四十條ノ經費ニ關シテハ前號總計ノ次行ニ於テ國郡市町村欄ニ「林區共通」ト記載シテ
 各欄ニ相當ノ事項ヲ記入シ通計ヲ爲スコト

十三 前號通計ノ次行即チ末尾ニ生産數量ニ付キ樹種材種別ヲ以テ再掲ヲ爲スコト

十四 第十三條第四號乃至第八號ハ本豫定案ニ適用ス

第四十條 大林區署ニ於テ小林區署ヲ限ラス關係小林區署ヲ通シテ要スル經費ニ付テハ左ノ科
 目ニ屬スルモノニ限り之ヲ豫定スルコトヲ得

款	項	目	節
森	事	斫伐作業費	
林	業		支 消 品
費	費		通 信 運 搬 費
			雜 費

第四十一條 作業第二部ニ於ケル收入及支出ニ關スル計算方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一 生産品ノ價額ヲ收入トス

二 資材價額及經費ヲ支出トス

三 收入ト支出トノ差ヲ利益又ハ損失トス

四 利益又ハ損失ヲ支出ニテ除シタル商ヲ利益又ハ損失ノ歩合トス

林區共通ノ經費ハ前項ノ支出ニ算入セス各所共通ノ經費ハ其ノ用途種目ニ應シ各作業箇所
 ノ材積ニ按分シテ算入スヘシ

第一項收支ノ比較及損益歩合算出ノ場合ニ於テ作業ノ結了翌年度以降ノモノナルトキハ收
 入及支出ハ其ノ結了迄ノ全額ヲ以テ標準ト爲スヘシ

第四十二條 作業ノ結了翌年度以降ニ在ル箇所ニ對シテハ著手年度ニ於テ豫シメ各年度所屬ノ功
 程、經費ヲ概定シ年度區分概定表ヲ調製シテ豫定案ニ附屬セシムヘシ

第九節 作業第二部豫定案

第四十三條 本豫定案ハ當該大林區署ニ於テ生産シ又ハ他署ヨリ轉送ヲ受ケタル林産物品ノ保管處分等凡テ各年度ノ貯材ニ關スル事業ノ施行ヲ豫定スルモノトス

第四十四條 本豫定案ヲ貯材作業及貯材經費ノ二表ニ別ツ
貯材作業表ハ貯材ノ受拂ニ關スル事項貯材經費表ハ同作業ニ要スル經費ニ關スル事項ヲ各記載スルモノトス

第四十五條 貯材作業表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

- 一 樹種材種受入事由及單價ノ異ナル毎ニ記入番號ヲ付スルコト
- 二 受入事由欄ニ於テ「本年度受入分」及「前年度ヨリ繰越分」ノ口座ヲ設ケ本年度受入ノモノニシテ當該大林區生産ニ係ルモノナルトキハ受入事由欄ニ各相當ノ事項他大林區署ヨリ受入ニ係ルモノナルトキハ同欄ニ「何々大林區署ヨリ」ト記入シ前年度ヨリ繰越ニ係ルモノナルトキハ繰越ト記入スルコト
- 三 受入品價額ニ關シテハ本年度新ニ受入ルルモノニシテ當該大林區署ノ生産ニ係ルモノナルトキハ作業第一部豫定案ノ生産單價他大林區署ヨリ轉送ニ係ルモノナルトキハ轉送元ノ仕切單價ヲ用非テ計算シ又前年度ノ繰越ニ係ルモノハ前年度ノ豫定案殘ノ部ノ價額ニ一致スルヲ要スルコト
- 四 材種及受入事由同一ナルモノニシテ排出ノ事由及單價ヲ異ニスルモノナルトキハ排出ノ數量(數量ハ材種ヲ仕切價額及事由ハ一行内ニ分記シ排出事由ノミヲ異ニスルモノナルトキハ共ノ事由ノミヲ分記スルコト)

- 五 拂出ノ數量ニ對スル當初受入價額ハ受入單價ヲ用非テ計算スルコト
- 六 拂出數量ニ對スル仕切價額ニシテ當所ノ實收ニ屬スルモノハ當所收入欄ニ他貯藏所ニ轉送スルモノノ價額ハ他所轉送欄ニ記載スルコト
- 七 拂出數量ニ對スル仕切價額ト其ノ當初受入價額トノ差ハ差引増減欄ニ記入シ拂出價額ノ減少ハ朱書スルコト
- 八 拂出數量ノ受入數量ヨリ少キトキハ其ノ差額ヲ殘ノ部ニ墨書スルコト但シ其ノ價額ノ算出ハ第五號ノ方法ヲ準用スヘシ
- 九 第二號ノ口座毎ニ計ヲ爲シ兩口座通シテ貯藏所毎ニ合計ヲナスコト
- 十 前號各貯藏所ノ合計ハ之ヲ通シテ一大林區ノ通計ヲナシ末尾ニ樹種材種別再掲ヲ爲スコト
- 第四十六條 貯材經費表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 一 科目欄ニハ經費科目種目欄ニハ物品其ノ他ノ種類名摘要欄ニハ種目ノ説明事項ヲ記入スルコト
 - 二 經費用途種目欄處理費及輸送費ハ左ノ區別ニ依ルコト
 - 「處理費」保管及販賣ニ關シ場内一切ノ處理ニ要スル費用
 - 「輸送費」原料引取(他部又ハ他所ノ作業ニ於テ豫定)及送り届ノ場合等輸送ニ關スル費用
 (定シタル終了地點ヨリノ引取)
 - 輸送費ニ付テハ其ノ必要ノ事由及之カ算出ノ基ク所並受入單價ト仕切單價ノ關係等ヲ備考欄若クハ摘要欄ニ特ニ詳記スルコト
 - 三 經費科目ノ節毎ニ小計目毎ニ計ヲ爲シ各目ヲ通シテ各貯藏所ノ合計ヲ爲スコト

- 四 貯藏所毎ニ前項合計ノ次ニ第四十七條ニ依ル收支ノ計算及損益ノ歩合ヲ記入スルコト
 - 五 修繕費若クハ新營費ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ必要ナル事由ヲ備考欄ニ詳記スルコト
 - 六 第三號ノ各貯藏所ノ合計ハ之ヲ通シテ一大林區ノ總計ヲ爲スコト
 - 七 第八條ニ依リ本表ヲ當省へ進達スル場合ニ於テ一大林區ヲ通シ貯藏所ニ箇所以上ナルトキハ各貯藏所ニ於ケル種目ノ記入ヲ省略スルコト但シ省略セタル種目ニ付テハ別ニ一大林區ヲ通シ各貯藏所ニ要スル經費ヲ種目毎ニ合計シ豫定案附屬種目別經費總括表ヲ作り提出スヘシ
- 第四十七條 作業第二部ニ於ケル收入及支出ニ關スル計算方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 一 拂出品仕切價額ノ合計及殘數量ニ對スル價額ヲ收入トス
 - 二 受入品ノ價額及貯材經費(新營費ヲ除ク)ヲ支出トス
 - 三 收入ト支出ノ差ヲ利益又ハ損失トス
 - 四 利益又ハ損失ヲ固定資本額ト第二號ノ支出トノ和ニテ除シタル商ヲ利益又ハ損失ノ歩合トス
 - 五 固定資本額ハ貯藏所ノ敷地ヲ購入及其ノ設備ニ要シタル資本金額トス若シ敷地ノ購入價額ナキトキハ近鄰地ノ買價價額五箇年間ノ平均ニ依ル
- 新營ヲ行ヒタルトキハ新ニ固定資本ヲ増加セルモノト同様ニ計算スヘシ
- 第十節 作業第三部豫定案
- 第四十八條 本豫定案ハ製材所ニ於ケル製材原料ノ受拂加工製品ノ保管販賣等凡テ各年度ノ製材ニ關スル事業ノ施行ヲ豫定スルモノトス

- 製材ニ附帶シテ生スル屑木ハ製材ニ準シ取扱フモノトス
- 第四十九條 本豫定案ヲ製材原料製材作業製材經費ノ三表ニ別ツ
- 製材原料表ハ製材原料ノ受拂ニ關スル事項製材作業表ハ生産品ノ受拂ニ關スル事項製材經費表ハ製材ニ要スル經費ニ關スル事項ヲ各記載スルモノトス
- 第五十條 製材原料表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 一 受入事由欄ニ於テ「本年度受入分及前年度ヨリ繰越分」ノ口座ヲ設ケ本年度受入ノモノニシテ當該大林區生産ニ係ルモノナルトキハ受入事由欄ニ拂出元ノ貯藏所名ヲ記シ他大林區ヨリ轉送ニ係ルモノニ在リテハ轉送元ノ大林區署名ヲ記入スルコト
 - 二 受入價額ニ關シテハ本年度新ニ受入ニ係ルモノハ拂出元ノ仕切單價ヲ用非テ計算シ前年度ノ繰越ニ係ルモノハ前年度豫定案ノ殘ノ部ノ價額ニ一致スルヲ要スルコト
 - 三 拂出ノ數量ニ對スル價額ハ當初受入單價ヲ用非テ計算スルコト
 - 四 第四十五條第一號第八號第九號及第十號ハ本表ニ準用スルコト
- 第五十一條 製材作業表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 一 主製品ハ材種毎ニ副製品ハ一括シテ主製品ノ末行ニ記入スルコト
 - 二 材種毎ニ通稱單位ニ依リテ計算シタル數量及之ヲ尺ノ單位ニ換算シタル數量トヲ各相當欄ニ記入スルコト但シ通稱單位ハ必ス肩書ヲ以テ之ヲ表示スヘシ
 - 三 受入品ノ價額ニ關シテハ本年度新ニ受入ニ係ルモノハ受入單價ヲ用非テ計算シ前年度ノ繰越ニ係ルモノハ前年度製材作業ノ豫定案殘ノ部ノ價額ニ一致スルヲ要スルコト
 - 四 第四十五條第四號乃至第十號ハ本表ニ準用スルコト

第五十二條 製材經費表ノ記載方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

- 一 經費用途種目欄ノ工場費、輸送費及共通費ハ左ノ區別ニ依ルコト
 - 「工場費職工人夫」(資材ノ仕舞及持運材)ニ要スル費用並作業上必要ナル器具器械及支消品等ノ費用
 - 「輸送費原料ノ引取」(他部又ハ他所ノ作業ニ於テ取)及製材ノ送り届ニ關スル費用
 - 「共通費林産物品ノ保管、出納、所内ノ取締、詰員ノ旅費等作業ニ伴フ事務ニ要スル費用
 - 二 製材所毎ニ經費合計ノ次ニ第五十三條ニ依ル收支ノ計算及損益歩合ヲ記入スルコト
 - 三 第四十六條第一號第三號及第五號乃至第七號ハ本表ニ準用スルコト
- 第五十三條 作業第三部ニ於ケル收入及支出ニ關スル計算方ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 一 拂出スヘキ生産品仕切價額ノ合計並當年年度殘ニシテ翌年度ヘ繰越スヘキ製材原料及生産品ノ價額ヲ收入トス
 - 二 受入ルヘキ製材原料ノ價額、前年度ヨリ繰越スヘキ生産品ノ價額、製材經費(新營費ヲ除ク)並工場其ノ他建物及作業用器具器械ニ對スル資本ノ償還額ヲ支出トス
 - 償還額ハ工場其ノ他建物、器具器械ノ保存年限ヲ定メ、其ノ保存年數ヲ以テ建設又ハ購入据付ノ價額ヲ除シタル商トシ、其ノ保存年限中、年々償還スルモノトス但シ修繕ヲ加ヘタルトキハ修繕後ノ狀態ニ依リ從前償還金高ヲ設置又ハ購入ノ價額中ヨリ控除シ新ニ保存年限及償還年額ヲ示スヘシ
 - 三 收入ト支出ノ差ヲ利益又ハ損失トス
 - 四 利益又ハ損失ヲ固定資本額ト第二號ノ支出(償還額ヲ除ク)トノ和ニテ除シタル商ヲ利益又

ハ損失ノ歩合トス

- 五 固定資本額ハ敷地ノ購入及其ノ設備ニ要シタル金額、工場其ノ他建物ノ建設費、作業用器具器械ノ購入据付等ニ要シタル資本金額トス若シ土地ニシテ購入價額ナキモノナルトキハ第四十七條第五號ニ準シ、其ノ價額ヲ定ムヘシ
- 新營ヲ行ヒタルトキハ新ニ固定資本ヲ増加セルモノト同様ニ計算スヘシ
- 第二章 實行
- 第五十四條 豫定案ノ不實行ト稱スルハ豫定案ニ於ケル事業ノ全部又ハ一部ニ對シ實行ヲ廢止シタルモノ又ハ實行スルヲ得サルモノヲ云フ
- 主産物又ハ副産物處分ノ豫定ニシテ賣拂ノ手續ヲ爲スモ賣買ヲ爲ササリシモノ亦不實行ト見做ス
- 事業箇所變更ノ場合ハ其ノ變更前ノ箇所ニ對シ不實行アリタルモノトス
- 第五十五條 豫定案ノ變更増減ト稱スルハ事業箇所ヲ變更セシメテ樹種、材種、面積、數量、長、幅、經費又ハ收入額等ヲ變更増減スルヲ云フ
- 運材地點並運材通路ノ變更ハ事業箇所ノ變更ト見做サス
- 第五十六條 大林區署長第八條ニ依リ豫定案ノ認可ヲ得又ハ第十條若ハ第十一條ニ依リ豫定案ヲ確定シタルトキハ第二項ニ掲グルモノヲ除ク外、小林區署長ヲシテ之ヲ實行セシムヘシ但シ必要又ハ便宜ニ應シ大林區署長自ラ執行スルコトヲ得
- 左ノ各號ノ一ニ該當スル豫定案ハ大林區署長自ラ之ヲ實行スヘシ但シ造林第四部豫定案ニ付テハ必要又ハ便宜ニ應シ其ノ他ノ豫定案ニ付テハ已ムヲ得サル事由ニ依リ小林區署長ヲシテ之ヲ

實行セシムルコトヲ得

- 一 主産物又ハ副産物ノ處分ニシテ別ニ定ムル所ニ依リ大林區署長ニ於テ實行ヲ要スルモノ
- 二 造林第一部中一圃地三百町歩以上ノ新植事業又ハ一圃地五百町歩以上ノ補植事業
- 三 造林第一部中一廉千圓以上ノ砂防工
- 四 造林第二部但シ木材運搬ヲ主タル目的トセサル歩道又ハ雜工ヲ除ク
- 五 造林第四部
- 六 作業第一部中一箇所二万尺以上ノ事業
- 七 作業第二部
- 八 作業第三部

前項但書ニ依リ小林區署長ヲシテ實行セシムルトキハ其ノ事由ヲ具シ本大臣ニ報告スヘシ

第五十七條 豫定案ノ實行ニ關スル人夫雇傭事業受負物件購入借入、建物ノ營繕等ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ定ム

第五十八條 豫定案所定以外ノ主産物ノ斫伐、採取若ハ處分又ハ林産物品ノ處分ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ追加豫定案ノ編成ヲ要セス大林區署長ニ於テ其斫伐、採取若ハ處分ヲ行フヘシ但シ一廉ノ見積價額千圓ヲ超ニルモノニ付テハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 國有林野ヲ他ノ官有地ニ組織又ハ讓與スル爲ナルトキ
- 二 盜伐、誤伐其他ノ災害ニ因ル林産物品ニ係ルトキ
- 三 損木ニ係ルトキ
- 四 林業附帶ノ爲ナルトキ

五 前各號ノ外豫見シ難キ事由ニ依ルモノナルトキ

第五十九條 豫定案所定以外ノ主産物又ハ副産物ノ斫伐採取又ハ處分ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ追加豫定案ノ編成ヲ要セス小林區署長ヲシテ其ノ斫伐、採取又ハ處分ヲ行ハシムヘシ但シ一廉見積價額三百圓(土地ノ買買ヲ爲ス副産物ニ付テハ二十圓)ヲ超ニルモノニ付テハ大林區署長ノ認可ヲ受ケシムヘシ

- 一 水火災ノ防禦用若ハ軍事用ノ爲ナルトキ
 - 二 測量若ハ境界査定ノ支障木竹又ハ檢證森林ニ關スル試驗調査ノ爲ナルトキ
 - 三 道路、鐵道、軌道、河川、溝渠、堤塘、溜池ノ新設敷地上ノ木竹又ハ道路、鐵道、軌道、電線、家屋、耕地等ニ對スル支障木竹又ハ危險木竹ニ係ルトキ
 - 四 枯死ノ見込アル燒木竹、枯木竹、轉倒木竹、盜伐木竹、誤伐木竹、伐倒木竹、挫折木竹、末木、枝條又ハ棄捐木竹ニ係ルトキ
 - 五 明治三十二年勅令第三百六十三號第五號又ハ第七號ニ依リ賣拂フモノナルトキ
 - 六 林區署ノ行フ造林若ハ土工事業ノ爲ナルトキ
 - 七 副産物ニ係ルトキ
- 前項ニ依リ小林區署長ニ於テ斫伐、採取又ハ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ大林區署長ニ報告セシムヘシ
- 大林區署長第一項ニ依リ認可ヲ與ヘムトスル場合ニ於テ一廉ノ見積價額千圓ヲ超ニルモノニ付テハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六十條 既定豫定案ノ變更増減ハ第二項ニ該當スルモノヲ除クノ外大林區署長之ヲ專決スル

コトヲ得

左ノ各號ノ一ニ該當スル豫定案ノ變更増減ニ付テハ豫シメ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 主産物又ハ副産物處分豫定案ノ收入總額(收入補填ノ目的ヲ以テ追加セル豫定案以外ノ追加額ヲ合)ニ對シ減少ヲ及ホスヘキ變更但シ豫定案ノ價額ニ超過シテ實行ヲ了リシモノアル場合ハ其ノ超過ニ係ル金額收入補填ノ必要ニ基キ追加セル豫定案アリタルトキハ其ノ追加豫定案ノ收入總額ヲ以テ減少スヘキ金額ヲ補填シ得ルモノヲ除ク

二 造林各部若ハ作業各部又ハ造林各部ト作業各部トヲ通スル經費ノ増減

三 造林第二部ノ内林道、河川、貯木場ノ利用目的ノ豫定ヲ變更セムトスルトキ但シ設計變更ノ認可ニ包含スルモノヲ除ク

四 作業各部ニ於テ毎箇所純益ノ豫定ニ減少(純益トキモノナルトキ)ヲ及ホスヘキ變更

實行ニ際シ再査ノ結果樹種面積數量ノ誤謬ヲ發見スルコトアルモ豫定案變更増減ノ手續ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第六十一條 第十條又ハ第十一條ニ依リテ追加豫定案ヲ確定シタルトキハ大林區署長ハ其ノ都度豫定案ヲ添ヘ本大臣ニ報告スヘシ

第八條第一項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條第二項又ハ前條ニ依リ當省へ提出スヘキ豫定案又ハ總括表ニハ第九條ニ掲ケタル圖書及書類ヲ添付スヘシ但シ種目別經費總括表ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六十三條 大林區署長ハ天災其ノ他不可抗ノ障礙ニ因リテ實行シ能ハサル場合、技術上若ハ經濟上ノ關係ニ因リテ實行ノ不得策ナル場合其ノ他特別ノ事由ニ基ク場合ニ非サレハ豫定案ヲ不

實行ニ歸セシムルコトヲ得ス

第六十四條 豫定案ノ不實行及第六十條ノ專決事項ニシテ著シキ變更増減ハ別ニ定ムル所ニ依リ大林區署長之ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第六十五條 豫定案ノ實行及豫定外ノ處分ハ別ニ定ムル所ニ依リ大林區署長之ヲ本大臣ニ報告スヘシ但シ著ルシキモノ又ハ新規ナルモノニ付テハ其ノ都度箇所、數量、金額、實行ノ狀況其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ報告スヘシ

第六十六條 造林第一節豫定案ノ實行ニシテ不結果アリタルトキハ大林區署長ハ之ヲ本大臣ニ報告スヘシ但シ輕微ナル不結果ニ付テハ此限ニ在ラス

造林各部又ハ作業各部豫定案ノ實行ニシテ天災其ノ他ノ原因ニ依リ豫定ノ目的ヲ達シ得サリシトキ亦前項ニ同シ

第六十七條 大林區署長ハ造林各部又ハ作業各部ニ屬スル當年度豫定案ノ事業ニ對シ其ノ全部又ハ一部ヲ翌年度へ繰越シタルトキハ事由ヲ具シ翌年度四月十五日迄ニ本大臣ニ報告スヘシ

第六十八條 作業各部豫定案内ニ於ケル林産物品ノ賣拂若ハ轉送又ハ製材原料ノ排出ニシテ當該年度ニ其ノ實行ヲ了ラサリシモノハ翌年度ニ繰延ヘ之ヲ實行スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ニ依リ繰延ヘヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 大林區署長ハ第六十條第一項又ハ第六十三條ニ依ル不實行ノ結果作業第一部ニ於テ年度區分概定表ニ異動ヲ及ホストキハ其ノ異動ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第七十條 大林區署長ハ豫定案ノ實行、不實行及第五十八條第六十條第六十七條及第六十八條ノ事項ハ記入番號毎ニ常ニ記載シ且ツ第八條ニ依リ總括表ノ調製ヲ要スルモノニ付テハ年度末ニ至リ各其ノ總括表ヲ調製スヘシ但シ小林區署長ノ實行セルモノニ付テハ小林區署長ヲシテ其

ノ記載ヲ爲シムヘシ

- 第七十一條 前條實行ノ記載方ハ總テ豫定案ニ準シ且ツ左記各號ノ定ムル所ニ依ルヘシ
 - 一 主產物處分、副產物處分、造林各部、貯材經費及製材經費ノ各豫定案ハ様式ノ定ムル所ニ依リ豫定ヲ表ノ左方ニ實行ヲ右方ニ記入シ其ノ他ノ各豫定案ハ別ニ該豫定案ト同様式ノ表ヲ作リ其ノ實行ヲ記載スルコト
 - 二 第五十八條第五十九條ニ依リ主產物ノ斫伐採取若ハ處分ヲ爲シタルトキ又ハ第十三條第十一號ノ部分木官收分若ハ被害木ノ處分ヲ爲シタルトキハ記入番號及事業區名又ハ林籍箇所名ヲ豫定面ニ記入スルコト
 - 三 豫定案ヲ變更増減シタルトキハ當該部分ニ朱線(朱書ニ對シテハ墨線)ヲ引キ變更事項ヲ朱書(朱書ニ對シテハ墨書)シ(若シ當該部分ニ變更ヲ記載スルノ餘地ナキトキハ別口ニ變更案ヲ調製シテ其ノ變更事項ノ記載ニ代ニ)且ツ主產物處分、副產物處分、造林各部、貯材經費及製材經費ノ各豫定案ニ在リテハ實行ノ備考欄ニ、其ノ他ノ各豫定案ニ在リテハ豫定ノ備考欄ニ各其ノ事由、執行月日及其ノ他必要ノ事項ヲ記載スルコト
 - 四 豫定案ノ不實行ノ場合ニ於テハ主產物處分、副產物處分、造林各部、貯材經費及製材經費ノ各豫定案ニ在リテハ實行欄ニ朱線ヲ引キ其ノ他ノ各豫定案ニ在リテハ豫定案ニ朱線ヲ引キ其ノ備考欄ニ各其ノ事由、執行月日及其ノ他必要ノ事項ヲ記載スルコト但シ造林各部及作業各部ニ在リテハ金額ヲ朱書シテ明瞭ナラシムヘシ
 - 五 豫定案所定事業ノ一部ヲ不實行ニ歸シタル場合ノ記載方ハ第三號ノ例ニ依リ尙ホ備考欄ニハ必ス一部不實行ノ五字ヲ掲記スヘシ
 - 六 豫定案ノ事業ヲ翌年度ニ繰越シタルモノアルトキハ實行濟ノ分ト繰越ニ係ル分トヲ分記シ

實行濟ノ分ハ第一號ニヨリテ墨書シ繰越ニ係ル分ハ同一行内ニ實行濟事項ノ上ニ朱書シ備考欄ニ其ノ事由、執行月日及其ノ他必要ノ事項ヲ記載スルコト

前年度ヨリ繰越ニ係ル事業ヲ實行シタルトキハ當該年度ノ實行部ニ於テ更ニ「前年度ヨリ繰越」ノ口座ヲ設ケ前年度ノ豫定案ヨリ其ノ記入番號林籍箇所名ヲ移記シテ實行ヲ記載シ同一行内ニ於テ當該年度ノ實行分ノ上ニ前年度實行濟ニ係ル分ヲ朱書シテ括弧ヲ付シ置クコト

前二項ノ規定ハ作業各部ニ於ケル繰延ヘ施行ニ關スル分ニ準用ス

七 主產物處分、副產物處分、造林各部、貯材經費及製材經費ノ各豫定案ノ一記入番號ニシテ數回ニ實行スヘキ見込ノモノニ在リテハ豫定面ニ豫メ實行上必要ナル丈ケノ空欄ヲ設ケ斜線ヲ引キテ次ノ記入番號ニ移ルコト

前項ノ場合ニ於テ數回ノ實行ハ其ノ全部ヲ終リタルトキ計ヲナスコト第一項ノ空欄ヲ設ケサル場合又ハ實行ノ回数豫定以上ニシテ餘白ナキニ至リタル場合ニ於テハ掛紙ヲ爲シテ之ヲ記入シ其ノ本紙掛紙ノ接合部ニハ主任官吏ノ捺印ヲ爲スコト

附則

第七十二條 國有原野ノ事業豫定案ハ森林ニ準シ本規程ヲ適用ス

第七十三條 各種豫定案及總括表ノ用紙ハ縦一尺三寸横一尺八寸ノ厚質美濃紙又ハ之レニ類似ノ料紙ヲ以テ中央ニ一寸幅ノ綴代ヲ明ケ調製スヘシ但シ記載ノ事項簡單ニシテ本文ノ用紙ニ及サルモノハ縦一尺一寸横一尺二寸ノフルスカップヲ用ユルコトヲ得

第七十四條 明治三十二年ニ訓令第九號及明治三十一年十一月十一日訓令第三十六號ハ之ヲ廢止ス(別紙)

明治三十九年十二月訓令 農商務省第四十一號 國有林事業豫定案規程

行										豫														
間伐					主伐					備考	記入番號	國	郡	町	大字	小字	林田(小字)	林別	樹種	面積		材積		備考
面積	數量	價格	數量	價格	面積	數量	價格	數量	價格											面積	材積	面積	材積	

定										
間伐					主伐					備考
面積	數量	價格	數量	價格	面積	數量	價格	數量	價格	
<p>明治何年度 何小林區 主產物處分豫定案</p> <p>何大林區 何小林區署</p> <p>大林區署ニテ編製スル分ハ下部ノ小林區署名ヲ省 *大林區ノ次ニ署ノ字ヲ付スヘシ以下同シ 各樹式中記稱例ハ略ス△印ハ朱ナリ</p>										

明治三十九年十二月訓令 農商務省第四十一號 國有林事業豫定案規程

實											
指 令 日 期	處 分 法	特 許 事 由	樹 種	主 伐				間 伐			
				伐 採 面 積	用 材 數 量	材 價 格	薪 材 數 量	材 價 格	薪 材 數 量	材 價 格	價 格 合 計
<p>明治何年度 主產物處分豫定案 總括表</p>											
<p>何大林區署</p>											

記 入 番 號	小 林 區	事 業 區	林 別	作 業 種	級 別 (備 註)	主 伐				間 伐				備 考
						伐 採 面 積	用 材 數 量	材 價 格	薪 材 數 量	材 價 格	薪 材 數 量	材 價 格	價 格 合 計	
Empty table body for data entry														

實 行								豫 定					
報 月 日 期	處 分 法	特 賣 山	採 取 面 積	數 量	價 格		採 受 人		備 考	報 入 番 號	郡 市 村	大 字	林 區 名 字
					單 價	總 額	在 籍	氏 名					

定							
報 月 日 期	種 目	類 別	採 取 面 積	數 量	價 格		備 考
					單 價	總 額	

明 治 何 年 度
何 小 林 區
副 產 物 處 分 豫 定 案

何 大 林 區
何 小 林 區 署

豫 定															
費 種 類	備考	記 入 番 號	國 市 村 字	大 字	林 別 項 目	林 類 別 項 目	林 種 別 項 目	植 種 目	植 種 目	植 種 目	植 種 目	植 種 目	植 種 目	植 種 目	備考

明治何年度
何小林區
經常部(又ハ)特別經營部
造林第一部豫定案

何大林區
何小林區署

記 入 番 號	小 林 區	I (樹皮)		II (樹實)	
		數 量	價 格	數 量	價 格

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十二號 國有林事業豫定案規程

行		豫 定										
費 或 預 算	備 考	記 入 番 號	位 置	名 稱	類 別		種 類	面 積		經 費 單 價	總 額	備 考
					項	目		八 其 他	數 稱			

四九七

明 治 何 年 度
何 小 林 區
經常部(又ハ)特別經營部
造林 第二部 豫 定 案

何 大 林 區
何 小 林 區 署

記 入 番 號	小 林 區	類 別		樹 種	施 業 面 積
		項	目		

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十二號 國有林事業豫定案規程

四九六

記入番號	小林區	位 區	名 稱	類 別		種 類	面 積		又 他 稱	經 費		備 考
				項 目	目 的		ハ	ノ		單 價	總 額	

實			
面 積	又 他	經	
		單 價	總 額
ハ	ノ		

明 治 何 年 度
 經常部(又ハ)特別經營部
 造林第二部豫定案
 總 括 表

何 大 林 區 署

明治何年度
何小林區
經常部(又ハ)特別經營部
造林第三部豫定案

何大林區
何小林區署

定									
林種	林齡	疎密度	施業面積	種目	摘要	數量	經費		備考
							單位價	總額	

實行							豫								
施業面積	種目	摘要	數量	經費			備考	記入番號	國	市	町	大字	林種別	林齡別	項目
				單位價	總額	殘留									

明治何年度 何小林區 經常部(又ハ)特別經營部 造林第四部豫定案 何大林區 何小林區署				
記入番號	小林區	類別		樹林 種類
		項	目	

明治何年度 經常部(又ハ)特別經營部 造林第三部豫定案 總括表 何大林區署		
面積	經費	備考

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十一號 國有林事業豫定案規程

<p>明治何年度 經常部(又ハ)特別經營部 造林第四部豫定案 總括表</p> <p>何大林区署</p>			
實			
種目	摘要	數量	經費
			單價

五〇四

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十二號 國有林事業豫定案規程

行	豫定												
	費		備考	記入番號	試驗場所	類別	他ノ種類 樹種又ハ其	試驗種類	種目	經費			備考
	總額	殘額								摘要	數量	單價	

五〇四

産		經 費							備 考	
價 額	總 額	作 業 目 的	科 目	種 目	用 途 種 目	摘 要	數 量	單 價		總 額

明 治
何
作 業 第

何
何

記 入 番 號	小 林 區	試 驗 場 所	別 類		試 驗 種 類	經 費	備 考
			項	目			

何 年 度
小 林 區
一 部 豫 定 案

大 林 區 署
小 林 區 署

費		備 考
目	計	
共進	↑	

明治何年度 何小林區 作業第一部豫定案 附 屬 年度區分概定表

何大林区署
何小林区署

記入番號	國 市 町 村 字	林 字 別	作 業 種 別	級 別	面積(畝)	株 數	樹 種	蓄積	結丁年度	資 材				生 產								
										本 數	材 積	價 值	價 值	材 種	材 種	材 種	材 種					

				<p style="text-align: center;">明 治 何 年 度 作 業 第 一 部 豫 定 案 附 屬 經 費 種 目 別 總 括 表</p> <p style="text-align: center;">何 大 林 區 署</p>			
				數 量		金 額	
單 位		總 額					

作業第一 部豫定案 記入管段	國有林名	年 度	樹 種	伐木造材				運材		生 産			經			
				資材		造材		材 量	材 積	材 積	價 額	價 額	總 額	科 目	用 途	
				材種	材種	材種	材種								材積	材積
				數量	數量	數量	數量									

事由	出 入											備 考					
	價 額		仕 切							價 額							
	數量	材積	單價	總額	仕切	仕切	仕切	仕切	仕切	仕切	仕切		仕切	仕切			

記入番號	經費科目	種 目
<p>明 治 何 年 度</p> <p>何 貯 藏 所</p> <p>作 業 第 二 部 豫 定 案</p> <p>貯 材 作 業 表</p>		
<p>何 大 林 區 署</p> <p>何 小 林 區 署</p>		

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十一號 國有林事業豫定案規程

行		豫定									
額		記入番號	科目	種目	摘要	數量	金額			備考	
項目	計						單價	用途種目			計
								運送費	其他費		
↑	↑										

明治三十九年十二月 訓令 農商務省第四十一號 國有林事業豫定案規程

明治何年度
何貯材所
作業第二部豫定案
貯材經費表

何大林區署
何小林區署

記入番號	樹種	材種	受入				數量	材積	價額	
			事由						單價	總額
			研究費	小作費	研究費	生年費				

能入番號	經費科目	種目	數量	金額		備考
				單位	總額	
				↑	↑	

總要	數量	實金	
		單位	用途處理費
		↑	↑

明治何年度
何大林區
作業第二部豫定案
附屬
經費種目別總括表

何大林區署

明治何年度
何製材所
作業第三部豫定案
製材原料表

何大林区署
何小林区署

備考	價		
	單價	材價	總額
	↑	↑	↑

事由	入			拂出			數量	材積
	數量	價		數量	價			
		單價	總額		單價	總額		
		↑	↑		↑	↑		

明治何年度
何製材所
作業第三部豫定案
製材作業表

何大林区署
何小林区署

材種	樹種	配入番號

山	出										殘			備考
	價	材積	受入		仕		切		引減	材積	價	價		
			單價	總額	單價	總額	單價	總額					單價	

		豫 定											
計	備 考	記入番號	經費科目	種 目	摘 要	數 量	金 額				備 考		
							單 價	用 途 種 目				計	
								工	費	共			
↑													

		受 入						
記入番號	材 種	事 由	數 量	材 積	價 額		總 額	
					單 價	價 值		
					↑	↑		

明 治 何 年 度
何 製 材 所
作 業 第 三 部 豫 定 案
製 材 經 費 表

何 大 林 區 署
何 小 林 區 署

精製	數量	金額			
		單價	用途種目		
			工事費	材料費	其他費

明治何年度
何大林区
作業第三部豫定案
附屬
經費種目別總括表

何大林区署

〔参照〕

明治三十二年五月十日農商務省訓令第九號「國有林事業豫定案編製規程」同三十一年十二月一日同訓令第三十六號「森林事業費及收支豫算概定順序」ナリ

記入番號	經費科目	種目	數量	金額		備考
				單價	總額	

○農商務省訓令第四十二號

明治四十一年度以降歳入概算書及歳出概算書ハ前年度四月十五日迄ニ調製差出スヘシ

明治三十九年十二月二十九日

農商務大臣松岡康毅

○農商務省訓令第四十三號

道廳府縣

本邦ノ蠶絲業ハ漸ク以テ發達シ今日ノ盛況ヲ觀ルニ至レルハ頗ル喜フヘシト雖深ク其ノ實況ヲ查察スレハ之カ經營ノ方法等ニ於テ改善ヲ加フヘキモ亦尠シトセス就中共ノ經濟組織ノ如キハ多クハ舊慣ヲ墨守シ未タ著シク進歩ノ實ヲ認ムル能ハサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ
惟フニ産業組合ハ産業及經濟ノ發達ヲ圖ル爲極メテ必要ナル組織ナリ殊ニ多數ノ小企業者共同シテ此ノ組合ヲ設立スルコトハ最モ獎勵スヘキコトニ屬ス蠶絲業タル共ノ事業概ネ規模狹少ナルモノナルヲ以テ此等ノモノ共同シテ此ノ組織ヲ利用スルトキハ其ノ信用ヲ鞏固ニシ事業ノ改善ヲ致シ現時重要ノ輸出品タル生絲ヲシテ益々其ノ聲價ヲ高フセシメ因テ以テ其ノ産額ヲ増進セシメ其ノ效能洵ニ顯著ナルモノアルヘシ地方廳ハ宜シク營業者ヲ指導シ其ノ設立ヲ促シ以テ斯業ヲ改善シ國富ノ増進ヲ致スコトヲ努ムヘシ

明治三十九年十二月二十九日

農商務大臣松岡康毅

○逓信省訓令第一號

海事局、海務署

明治三十三年^{十二}月^{十二} 逓信省訓令第四號船舶検査手續中左ノ通改正シ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

明治三十九年十二月二十八日

逓信大臣山縣伊三郎

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

検査官吏明治三十九年^{十一}月^{十一} 逓信省令第四十九號ニ依リ外國船舶ニ臨檢シタルトキハ第三號書式ニ準シ直ニ検査報告書ヲ調製スヘシ

第九條第一項及ヒ第二項ヲ左ノ通改ム

検査官吏第一條ノ検査報告書ヲ調製シタルトキハ管海官廳ハ之ヲ添附シテ検査ニ關スル事項ヲ逓信大臣ニ報告スヘシ

検査官吏第一條ノ検査報告書ヲ調製スルコトヲ要セサル場合ト雖モ管海官廳ニ於テ船舶検査證書、假證書若ハ外國船舶臨檢證書ヲ交付シ又ハ之ヲ書換ヘタルトキハ其ノ事項及ヒ事由ヲ記載シ之ヲ逓信大臣ニ報告スヘシ船舶検査證書若ハ假證書ヲ裏書シタルトキ又ハ適航證書ヲ交付シタルトキ亦同シ

第十條中「検査證書ヲ發出シタルトキ」ヲ「検査ニ關スル證書ヲ交付シ若ハ之ヲ書換ヘタルトキ又ハ裏書ヲ爲シタルトキ」ニ改ム

第十一條第一項中「五種」ヲ「六種」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

六 外國船舶臨檢證書交付簿

第十一條ノ二 管海官廳ハ第七號書式ノ船舶検査件名簿ヲ備置キ検査ヲ執行シタルモ證書ノ交付又ハ書換ヲ要セサル場合ニ於テ検査ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

第十二條及ヒ第十五條第一項中「船舶検査證書、假證書、適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書」ヲ「検査ニ關スル證書」ニ改ム

第十三條第一項中「船舶検査證書、假證書其ノ他」ヲ削ル

第十四條 検査ニ關スル證書ノ書換又ハ再交付ヲ爲シタルトキハ該證書面ニ書換又ハ再交付ト朱記スヘシ

第十六條第一號中「船舶検査」ヲ削ル

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ外國船舶臨檢證書ニ之ヲ準用ス
第六號書式(戊)ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ

第六號書式(己)

外國船舶臨檢證書交付簿

國籍	船名	船種	總噸數	所有者	航路定限	證書有效期限	證書交付年月日			明治	年	月	日
							旅客	一等室	二等室				
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			
							汽機	汽機	汽機	汽機			

第七號書式

船種	船名	總噸數又八種石數	航路	検査種別	検査年度	検査地名	所有者	検査報告書検査官吏	船名	要

○統監府訓令第三十號(官報十二月二十五日)
理事廳支應ニ於テ其ノ所管ニ係ル歳入ノ徵收、歳入歳出現金ノ出納及物品ノ出納ヲ取扱フ官吏ハ
副理事官トス
副理事官事故アルトキハ其ノ官ニ於テ屬又ハ通譯生ヲ以テ其ノ代理官ト指命スヘシ
出納官吏ノ交替ニ關シテハ明治三十九年ニ統監府訓令第一號ニ依ル
明治三十九年十二月二十日 臨時統監代理韓國駐劄軍司令官男爵長谷川好道

理事廳支應

法令全書

達

○陸達第一號

本年ニ限リ陸軍大學校學生候補名簿ハ同校條例第十條ノ規定ニ拘ラス二月十五日迄ニ參謀總長ニ進達スルコトニ定メラル。

明治三十九年一月十二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸達第二號

明治三十九年陸軍大學校學生入學人員ハ約六十名トシ初審試験ハ三十九年五月二十五日ニ再審試験ハ同年八月五日ニ開始シ入學試験科目別表ノ通定ム

明治三十九年一月十二日

陸軍大臣寺內正毅

(別表)

明治三十九年陸軍大學校入學試験科目表	
職	術
初級戰術及野外要務	
兵 器 學	概テ士官學校教育ノ程度ニ由ル
築 城 及 交 通 學	概テ士官學校教育ノ程度ニ由ル
地 形 學	概テ士官學校教育ノ程度ニ由ル

考 備	外國	佛蘭西 獨逸 英 露	文法 原文和譯 和文及譯 會話
	學 校	三 角 平三角	何 平面 立體
外國醫學ハ佛蘭西露獨逸ノ内候補者ノ給與ニ從ヒ必ス其ノ一ヲ試験ス			

○陸軍第二號

明治三十二年陸軍第二十二號雇員備人給料支給規則中左ノ通改正ス

明治三十九年一月十五日

陸軍大臣寺内正毅

第八條 日割計算ノ法ハ其ノ支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ錢位未滿切捨支給ス但シ第五條及第六條ノ場合ニ在リテハ月額ヲ二分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ(毛位以下切捨)之ヲ月額ノ内ヨリ控除シ錢位未滿切捨支給額ヲ得

備 給 表

名 稱	月 給	名 稱		日 給
		小 使	仕 給	
番 病 人	十四圓五十錢	小 使	四 十 錢	
醫 工	二十一圓	仕 給	二 十 三 錢	
脚 工	十八圓	廚 夫	三 十 五 錢	
庫 手	十三圓五十錢			

茲 兩 番 十 六 圓	牧 手 五 十 五 錢
守 警 取 締 十 四 圓 五 十 錢	研 手 五 十 五 錢
守 警 十 三 圓 五 十 錢	病 馬 役 夫 四 十 五 錢
驗 湖 備 監 守 十 二 圓	丁 四 十 錢

本表ノ給額ハ總テ最上ノ限トス故ニ各官衙ハ該給額以内ニ於テ適宜備役スルモノトス
一官廳ニ於テ小使給仕ヲ通シ五名以上ナルトキハ五名ニツキ一名ノ割合ヲ以テ小使ニ一日金三圓
以テ増給スルコトヲ得
第七條管ニ在リテハ月給ノ者ニ二箇月金二圓以內日給ノ者ニ一日金五圓以內ヲ増給スルコトヲ得

○陸軍第四號

明治三十九年陸軍大學校學生候補者中戰時職務ニ在ル者ノ撰拔方ニ關シ左ノ通定ム

明治三十九年一月二十二日

陸軍大臣寺内正毅

- 一 陸軍大學校學生候補者ノ撰拔官ハ其ノ候補者ノ本職若シ現在本職ヲ有セサルトキハノ屬スル聯隊長等トス
- 二 戰時特設部隊ノ長聯隊長若ハ之ト同ハ其ノ部下ニ學生候補者タルノ資格アル者アルトキハ學生候補名簿ヲ製シ該候補者ノ本職ノ屬スル聯隊長等ニ移ス
- 三 聯隊長ハ前項ノ名簿ニ依リ該被撰拔者學生候補者タルノ資格アル者ト認ムルトキハ自ラ擔保官ト爲リ學生候補名簿ヲ編製シ順序ヲ經テ進達ス

○陸軍第五號

各隊ノ復員完結後ニ於ケル左記人員ニ係ル被服ノ給與ハ委任經理外トシ必要ニ應ジ現品ヲ給シ其ノ補修ハ實費トス其ノ手續ハ明治三十七年陸軍第四十六號第二條乃至第四條ニ準スル儀ト心得

へ

- 明治三十九年一月二十四日
- 一 明治三十八年十一月送乙第九四三號ニ依リ増加徵集ノ現役兵
- 二 前項ノ人員ヲ除キ尙平時定員ニ超過スル營内居住ノ下士兵本

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第一號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「春風」ノ次ニ「追風」ヲ加フ

明治三十九年一月十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第二號

艦營需品經理規程中左ノ通改正ス

明治三十九年一月十九日

海軍大臣齋藤實

第十條第二項中「兵備品出納命令官」第十八條中「兵備品會計官吏」、第二十條中「海軍工廠需品庫」、第二十六條「兵備品出納命令官」及第二十八條中「兵備品會計官吏」ノ上各所管若ハ在籍鎮守府ノ九字ヲ加フ

第三十條 艦隊司令長官及同司令官用艦營需品供給ノ整理ハ横須賀鎮守府兵備品會計官吏ノ所掌トス

〔參照〕

海軍省達第九十三號艦營需品經理規程(明治三十六年九月二十九日抄録)
第三十條 常備艦隊司令官及附屬艦隊司令官用艦營需品ノ供給ハ横須賀鎮守府兵備品會計官吏ノ所掌トス

○海軍省達第三號

三十六年達第九十號海軍各廳附屬雜役船ノ種類及定數表中要港部ノ部馬公ノ次ニ大湊ヲ加ヘ要港部及水雷團ノ次ニ防備隊ノ欄ヲ追加ス其種類及定數ハ別表ノ通トス

明治三十九年一月二十一日

海軍大臣齋藤實

計	船		雜		計
	起運船 船カ十五「トン」	浮船渠	傳馬船	五大方船 三「トン」以上 七「トン」以下	
14	1	*	5	4	
				和形 七「トン」以下	4
				汽船 十「トン」以下	4
				汽船 三「トン」以上 十「トン」以下	1
				大湊	

計	船		雜		計
	傳馬船	和形 七「トン」以下	汽船 十「トン」以下	汽船 三「トン」以上 十「トン」以下	
5	4	1	2	2	
				元山 鎮守府	1
				防備隊	

○海軍省達第四號

明治三十一年四月達第五十九號海軍軍醫官服務規則中左ノ通改正ス

明治三十九年一月二十五日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第五號

令般勅令第九號ヲ以テ海軍武官官階中改正セラレタルニ就テハ諸法令中ノ機關官ニ關スル項ハ總

テ相當ノ新官名ニ改メラレタルモノト看做スヘキモ將官、佐官、尉官ト記載シアル條項ヲ適用スルノ限ニアラス機關官ニ對シテハ總監、佐官相當官、尉官相當官トアルモノヲ適用スル儀ト心得ヘシ

海軍大臣齋藤實

明治三十九年一月二十七日

○海軍省達第六號
艦隊職員勤務令中ノ通改正ス

海軍大臣齋藤實

明治三十九年一月二十七日

第五條中「海軍大臣海軍軍令部長ニ提出スヘシ」ヲ「豫メ海軍大臣ノ承認ヲ受クヘシ」ニ改ム

○海軍省達第七號
帝國軍艦韓國領海ニ在リテハ軍艦外務令等ニ依リ我外交官又ハ領事官ニ對シテ爲スヘキ事項ハ統監又ハ理事官ニ對シテ之ヲ行フ儀ト心得ヘシ

海軍大臣齋藤實

明治三十九年一月三十一日

○陸軍省第六號

臺灣、樺太、清國及韓國ニ在ル部隊ニ屬スル軍人ニシテ其ノ地ニ殘留ヲ希望スル者ノ除隊ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十九年二月一日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 臺灣、樺太、清國及韓國ニ在ル部隊ニ屬スル軍人ニシテ内地歸還後直ニ召集解除又ハ現役滿期ト爲ルヘキ者ノ中共ノ駐節地ノ軍隊官衙等ニ雇傭セラレ又ハ確實ナル事業ニ從事セン爲メ該地ニ殘留ヲ希望シ部隊長ノ承認シタル者ハ各其ノ駐節地ニ於テ召集解除又ハ現役滿期ノ手續ヲ爲スコトヲ得但シ現役滿期ノ者ニ在リテハ滿期ノ日以前約一箇月以内ニ内地ニ向ケ歸還スヘキ者ニ限ル

第二條 前條ニ依リ召集解除又ハ現役滿期ノ手續ヲ爲スニハ左ノ各號ニ依ル

- 一 召集中ノ者ハ豫メ所屬部隊長ヨリ本人ノ本籍地、兵役官等級、氏名及殘留ノ事由ヲ詳記シ本籍地所管ノ師團長ニ協議シ所屬部隊長ハ當該部隊内地歸還ノ行動ヲ始ムル際ニ於テ召集解除ノ手續ヲ爲シ之ヲ本籍地所管ノ師團長ニ通報スヘシ
- 二 現役滿期ノ者ハ所屬部隊長ニ於テ現役滿期ノ前日ニ於テ除隊ノ手續ヲ爲シ本人ノ本籍地、官等級、氏名及殘留ノ事由ヲ詳記シ本籍地所管ノ師團長ニ通報スヘシ但シ現役滿期ノ日以前ニ所屬部隊内地歸還ノ行動ヲ始ムル等ノ場合ニ在リテハ所管長官ニ稟申シ所管長官ハ滿期ノ日マテ其ノ所屬ヲ變スルコトヲ其ノ地ニ在ル適宜ノ部隊ニ編入シ然ル後本文ノ手續ヲ爲スモノトス
- 三 前二項ノ場合ニ於テ將校同相當官ニ在リテハ免職ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 歸休兵トシテ旅行又ハ在留スルヲ得ル地ニ駐節中歸休ヲ命スル者ハ現役滿期ノ例ニ依リ其ノ地ニ於テ歸休ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第四條 本規則ニ依リ召集解除現役滿期又ハ歸休ト爲リタル者ニハ歸郷旅費ヲ給セス

○陸軍第七號

陸軍砲工學校ハ來ル四月一日共ノ閉鎖ヲ解キ授業ヲ開始ス各部隊ニ在ル同校學生留學學生ハ其ノ戰時職務ヲ解キ三月二十五日迄ニ復校セシムヘシ

明治三十九年二月二日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第八號

乘馬本分タル上長官ニシテ客年滿密發第一五〇一號ニ據リ下級職ヲ執ル者ノ乘馬ニ就キ左ノ通心得ヘシ

明治三十九年二月八日

陸軍大臣寺內正毅

一 其ノ下級職ニ對スル馬數ヲ飼養セシム

二 乘馬ヲ要セザル職ニ就ク者ハ一頭ヲ限リ飼養スルコトヲ得

三 現在自馬二頭ヲ所有スル者ハ本達ノ日ヨリ六箇月以内ハ其ノ儘飼養スルコトヲ得

○陸軍第九號

本年定期ノ馬匹補充ヲ停止ス

明治三十九年二月十日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第十號

師團旅團及要塞ノ副官ナリシ尉官ハ今回ノ戰役間ニ於ケル其ノ服務期日ヲ陸軍大學校條例第九

條ノ隊附年月ニ計算スルコトヲ得ルコトニ定メラル

明治三十九年二月十七日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第十一號

來ル三月一日ヲ以テ陸軍糧秣廠大阪派出所ヲ兵庫ニ移シ陸軍糧秣廠兵庫派出所ト改稱ス

明治三十九年二月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第十二號

來ル四月一日左記各學校ヲ開始ス

明治三十九年二月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍戸山學校

陸軍騎兵實施學校

陸軍野戰砲兵射擊學校

陸軍要塞砲兵射擊學校

○陸軍第十三號

兵器取扱規則附表第十表其ノ一中要塞砲兵ノ欄空包ヲ現役兵卒二〇豫備役兵卒一〇後備役兵卒一〇ニ改ム

明治三十九年二月二十四日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第十四號

陸軍運輸部本部出張所ヲ左記各地ニ設置ス
右ハ本年三月十五日ヨリ業務ヲ開始ス

明治三十九年二月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

仁 川 鎮 南 浦 龍 岩 浦
 釜 山 元 山 西 湖 津
 清 津 青 森 コルサコフ

○陸軍第十五號

本年入校スヘキ陸軍戸山學校戰術科學生ハ其ノ修業期ヲ約八箇月半トシ十二月上旬入校セシム
 明治三十九年二月二十七日 陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第八號

軍艦香取外六隻ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年二月一日

信號符字		艦名	
G Q W W D	香 島 取	G G G G	春 風
G Q W W F	鹿 島	Q Q Q Q	夕 風
G Q W W H	朝 風	W W W W	道 風
		M L K J	若 暮

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第九號

捕獲汽船「インダストリー」ヲ板橋丸ト命名シ其本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十九年二月三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第十號

汽船板橋丸ニ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年二月三日

海軍大臣齋藤實

G Q S W 板橋丸

○海軍省達第十一號

海軍軍人軍服休暇規則中左ノ通り改正ス

明治三十九年二月八日

海軍大臣齋藤實

第二條中「艦隊司令長官」ノ下ニ司令長官ヲ置カレサル艦隊ノ首席司令官ヲ加フ

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七條ノ二 第五條第二項及第七條ノ場合ニ於テ親補職ニ在ル將官及侍從武官長東宮武官長ニ在

テハ海軍大臣ヲ經テ勅許ヲ請フヘキモノトス

〔參照〕

海軍省達第四百十二號海軍軍人軍服休暇規則(明治三十六年十一月十日)抄録

第二條 艦隊其ノ他各部ヲ下士卒ノ中ニ選出スル者ハ其ノ上陸外出ニ關シテハ各鎮守府司令長官艦隊司令長官各港部司令官、軍港域内ノ練習所ニ在ル下士卒ニ關シテハ該鎮守府司令長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受ケル

○海軍省達第十二號

佐世保鎮守府在籍

汽船 藻 寄 丸

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ニ改ム

明治三十九年二月十二日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第十三號

艦船造修試驗檢査規則第六十二條中「黒色」ノ船ニハ「白色」ノ下ヘ「鼠色」ノ船ニハ文字ノ寸法ニ應ジ白

色ノ圓形若ハ楕圓形ヲ作り共ノ中ニ黑色ヲ加フ

明治三十九年二月十二日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第十四號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「追風」ノ次ニ「白露」ヲ加フ

明治三十九年二月十五日

海軍大臣齋藤實

○宮内省達甲第一號

明治二十二年七月^七宮内省達第十一號中諸王家ノ註「梨木宮」ノ次ニ「朝香宮」ヲ「北白川宮」ノ次ニ「竹田宮」ヲ加フ

明治三十九年三月三十一日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔参照〕

明治二十二年七月^{十三}日宮内省達第十一號ハ皇族職員官等ナリ

○宮内省達乙第一號

明治二十二年七月^七宮内省達第十五號學習院學則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二日

宮内大臣子爵田中光顯

第四條中「志願ニ由リ」ノ五字ヲ削ル

第五條 學習院ノ學年即教育ノ年度ハ當年ノ四月一日ヨリ翌年ノ三月三十一日迄ヲ期トス此内休業日左ノ如シ

日曜日

春季休業 自四月一日 至四月十日

神武天皇祭

靖國神社大祭

皇后陛下御誕辰

夏季休業 自七月十一日
至九月十日

秋季皇靈祭

神嘗祭

開院紀念式 十月十八日

天長節

新嘗祭

冬季休業 自十二月二十五日
至一月七日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

第六條 學年中休業日ヲ除キ之ヲ三學期ニ區別ス

第一學期 四月十一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期 九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル

第三學期 一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 但書中「第一學期」ヲ「第二學期」ニ改ム

第十條 中「夏季休業中」ヲ「春季休業中」ニ改メ其下ニ「又ハ他ノ時期」ノ六字ヲ加フ

第十二條 入學ノ期ハ學年ノ始トス但他ノ時期ニ於テ臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

附則

現在ノ高等學科及中等學科六年級ノ學年學期ハ從前ノ制ヲ適用ス

〔參照〕

宮内省達第十五號學習院學則(明治二十三年七月二十八日抄録)

第四條 中等學科以上ノ學生ニシテ年齡過長體質虛弱等ノ爲定則ノ課業ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ志願ニ由リ該

職ノ上各學科中ノ一教課若クハ數教課ヲ授修セシム此學生ヲ探科學生ト稱ス

第五條 學習院ノ學年(即教育ノ年度)ハ當年ノ九月一日ヨリ翌年ノ八月三十一日迄ヲ期トス此内休業日左ノ如シ

日 曜 日

秋季皇靈祭

神嘗祭

開院紀念式 十月十八日

天長節

增四神社大祭

新嘗祭

冬季休業 自十二月二十五日
至一月七日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

春季休業 自四月十日
至四月十九日

夏季休業 自七月十一日
至九月十日

但高等學科ニ在リテハ九月一日ヨリ同二十日迄ヲモ夏季休業トスルコトアルヘシ

第六條 學年中休業日ヲ除キ實際教學ノ日數ヲ算シテ之ヲ三學期ニ區別ス

第一學期 九月一日以後十二月二十四日以前凡九十三日(此間經過ノ日數百十五日週數凡十六週中 日曜日凡十六日餘
休業日凡六)

第二學期 一月八日以後四月三日以前凡七十日(此間經過ノ日數凡八十六日週數凡十二週三分一日曜日凡十二日餘休
業日凡四)

第三學期 四月十一日以後七月十日以前凡七十七日(此間經過ノ日數九十一日週數十三週日曜日凡十三日餘休業日凡一)

第七條 日々ノ課業時間ハ毎週土曜日ハ本末三時間自餘ノ日ハ本末五時間又ハ六時間トス七月一日以後九月二十日以前ニ

在リテハ土曜日ニアラサルモ三時間迄ニ減スルコトアルヘシ而シテ始業ノ時刻ハ午前八時ナルヲ當トス但第一第二學期ニ於テハ午前九時トスルコトアルヘシ毎時間課業實際ノ時間ハ學科表ノ備考ニ載ス
 第十條 各學科ノ最上級及第ノ者及其各級及第ノ者ニハ各相當ノ證書ヲ付與ス尤夏季休業中ニ於テ其日ヲ定メ特ニ儀式ヲ設ケテ之ヲ授クルモノトス
 但各學科ニ於ケル撰科學生ニハ其撰修ノ教課ノミニ係ル證書ヲ與フルモノトス
 第十二條 入學ノ期ハ前學年ノ終即チ夏季休業中ノ例規トス但冬季休業又ハ春季休業間其他臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘ

○宮内省達乙第二號

明治二十六年^八宮内省達乙第四號華族女學校規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二日

宮内大臣子爵田中光顯

第十六條 學年は四月一日に始リ翌年三月三十一日に終る之を一學級に配シ三學期に分ツ第一學期は四月十一日より七月十日に至リ第二學期は九月十一日より十二月二十四日に至リ第三學期は一月八日より三月三十一日に至る

第十七條 一學年中休業日左の如シ

春季休業 四月一日より四月十日まで

神武天皇祭

靖國神社大祭

皇后陛下御誕辰

夏季休業 七月十一日より九月十日まで

開校紀念日 十一月十三日

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

冬季休業 十二月二十五日より翌年一月七日まで

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

日曜日

〔参照〕

宮内省達乙第四號華族女學校規則明治二十六年八月二十三日抄録

第十六條 學年ハ九月一日に始リ翌年八月三十一日に終る之を一學級に配シ三學期に分ツ第一學期ハ九月一日より十二月二十四日に至リ第二學期ハ一月十一日より四月三日に至リ第三學期ハ四月十一日より七月三十一日に至る

○宮内省達乙第三號

明治二十七年^二宮内省達乙第一號華族女學校幼稚園規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二日

宮内大臣子爵田中光顯

第七條 休業日左の如シ

春季休業 四月一日より四月十日まで

神武天皇祭

靖國神社大祭

皇后陛下御誕辰

夏季休業 七月十一日より
開校記念日 十一月十三日

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

冬季休業 十二月二十五日より
翌年一月七日まで

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

日曜日

○宮内省達乙第四號

明治十九年五月 宮内省達第七號華族世襲財産法施行手續第二十二條第二類財産目錄書式中(割賦金ハ保證アルモノハ保證利子ヲ用ヒ保證ナキモノハ創立以來割賦平均額ヲ用ユヘシ)トアルヲ(割賦金ハ前五箇年間ノ割賦平均額ヲ用フヘシ)ニ改ム
明治三十九年三月二十二日
宮内大臣子爵田中光顯

○陸軍第十六號

滿韓地方ニ在ル部隊附砲工兵科將校ニシテ今後砲工學校ニ入校ノ者ハ直ニ其現所屬隊ヨリ入校セシム

明治三十九年三月九日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第十七號

築城部由良支部及澎湖島支部ヲ本月三十一日限り廢止ス

明治三十九年三月九日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第十八號

陸軍電信教導大隊士官學生ハ本年ニ限り其修學期ヲ十箇月ニ短縮シ來ル六月上旬入隊セシム

明治三十九年三月十二日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第十九號

本年十二月陸地測量部修技所生徒十二名ヲ募集ス

但シ募集手續ハ明治三十六年三月陸軍省令第三號陸地測量部修技所生徒募集規則ニ據ル

明治三十九年三月十四日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第二十號

陸軍軍人軍屬ニシテ日本郵船株式會社及大阪商船株式會社ノ船舶へ乗込賃金減額ノ儀本年三月ニテ滿期ノ處尙ホ本年四月ヨリ明治四十二年三月迄三箇年間繼續ス

明治三十九年三月十五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第二十一號

陸軍運輸部本部出張所ヲ左記各地ニ設置ス

右ハ本年四月一日ヨリ業務ヲ開始ス

明治三十九年三月十五日

陸軍大臣寺內正毅

大連 兵庫

○陸軍第二十二號

明治三十七年陸軍第四十八號勅諭配當數中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

- 「歩兵第一乃至第四十八聯隊」ヲ「歩兵第一乃至第六十四聯隊」ニ改ム
- 「騎兵第一乃至第十二聯隊」ノ下ニ「及第十七聯隊乃至第二十聯隊」ヲ加フ
- 「野戰砲兵第一乃至第十八聯隊」ヲ「野戰砲兵第一乃至第二十二聯隊」ニ改ム
- 「工兵第一乃至第十二大隊」ヲ「工兵第一乃至第十六大隊」ニ改ム
- 「輜重兵第一乃至第十二大隊」ヲ「輜重兵第一乃至第十六大隊」ニ改ム

○陸軍第二十三號

軍馬檢疫所閉鎖後ニ於テ滿韓地方ヨリ内地ニ歸還スル馬匹ニ在テハ乘船地及上陸地附近ノ師團ニ於テ相當ノ檢疫ヲ實施スヘシ

明治三十九年三月二十四日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第二十四號

明治三十七年陸軍第二十八號別表仕拂命令官歳入徵收官所管區分中左ノ通改正シ明治三十九年度分ヨリ之ヲ實施ス

明治三十九年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

臺灣陸軍經理部長ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

韓國駐劄軍經理部長	在韓國駐劄陸軍各部隊ニ係ル收入、經費 但第十三及第十五師團經理部長所管ニ屬スルモノヲ除ク
關東總督府經理部長	在滿洲駐劄陸軍各部隊ニ係ル收入、經費 但第十四及第十六師團經理部長所管ニ屬スルモノヲ除ク
第十三乃至第十六師團經理部長	當該師團各部隊ニ係ル收入、經費
樺太守備隊經理部長	在樺太陸軍各部隊ニ係ル收入、經費

備考第二ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ樺太、韓國、滿洲所在ノ運糧部出張所ヲ除ク

○陸軍第二十五號

明治三十九年度中衛戍病院條例第七條ノ定額ハ一日金十五錢同第九條ノ定額ハ一日金三錢トス

明治三十九年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第二十六號

韓國、關東、樺太ニ在ル憲兵將校以下及其ノ馬匹補充ニ關スル件左ノ通定ム

明治三十七年陸軍第百三號ハ之ヲ廢止ス

明治三十九年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 韓國、關東、樺太ニ在ル憲兵將校以下ニ缺員ヲ生シタルトキハ其ノ補充ヲ憲兵司令官ニ請求スヘシ但シ下士上等兵ハ定員ノ八分一以內ノ缺員ハ補充セズ
- 二 憲兵司令官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ將校及准士官ニ在リテハ陸軍大臣ニ稟申シ下士上等兵ニ在リテハ適宜憲兵隊ニ配當シ其ノ隊號及人員ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 三 馬匹ニ臨時多數ノ缺數ヲ生シタルトキハ其ノ補充ヲ陸軍大臣ニ申請スヘシ

四 補充員所要ノ兵器ハ憲兵司令官ヨリ兵器本廠長ニ請求シ兵器本廠長ハ之ヲ請求ニ應シ其ノ品目員數ヲ陸軍大臣ニ報告スルニ

(參照)

明治三十七年六月陸軍第百三號ハ戰時編制又ハ陸時ノ編成ニ依リ成立シタル諸部團隊所屬憲兵將校以下ノ缺員補充ニ關スル規定ナリ

○陸軍第二十七號

滿韓及樺太ニ駐留スル陸軍部隊ニ於ケル看守、警守及備人ニ係ル被服給與方當分ノ内左ノ通定

明治三十九年三月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 現ニ備役中ノ者ハ從前ノ給與ヲ續行ス
- 二 新ニ採用又ハ備入ノ者ニハ別表ニ據リ初度現品ヲ貸與シ爾後實際ノ破損ニ從ヒ補修ヲ加ヘ且必要ニ應シ之ヲ換給ス

(別表)

品目	看守警守	番病人、磨工、磨工守、磨工手	小使給仕	廚	夫	馬	丁
帽	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇		
絨衣袴	二組	一組	一組	一組			
小倉衣袴	一箇	一組	一組				
白							
夏衣袴	二組	二組	二組				
外	一箇	一箇	一箇		一箇		一箇

備	靴	足袋	腹掛	笠	單法被服引	袴法被服引	麻脚絆	靴	襪	襪	襪	襪	襪	襪	襪
一 取手ノ帽、衣袴外袴及馬丁ノ外袴ハ番病人ノ製式ニ同シ但シ取手ニ在リナハ衣及外袴ノ左 腕ニ緋緘ノ臂章 ニ縫著ス							一組	二組	二組	二組	二組	二組	二組	二組	二組
二 厨夫ノ帽ハ小使ノ製式ニ、法被服引ハ馬丁ノ製式ニ同シ															

○陸軍第二十八號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス但シ雇員ニ貸與シアル茶褐色夏衣袴、同日履ハ使用ニ堪ユルマテ其ノ儘使用セシムルコトヲ得

明治三十九年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

第十二條中但書ヲ削ル

第三表中准士官以上、高等文官ニ係ル茶褐色夏衣袴、同日履ノ襦ヲ削リ下士以下ニ係ル茶褐色夏衣袴乃至同垂布ノ襦内「判任文官」及「雇員」ノ下ニ各「垂布」ヲ加ヘ備考第一項ヲ削ル

○海軍省達第十五號

海軍工廠資金取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十九年三月三日

海軍大臣齋藤實

第八條

第一項中「計算課長」ヲ「計算課員」ニ改ム

第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ會計部長疾病其ノ他公私ノ事故ニ依リ職務ヲ執ル能ハサル場合ニ於テ其ノ職務ヲ代理執行セシムル爲計算課長(遊兵廠ニ在リテハ材料庫主管下)ヲ常置代理官トシ明治三十二年達第二十一號委任仕拂命令官代理規程ヲ準用セシム

【參照】

海軍省達第三十六號海軍工廠資金取扱規程(明治三十八年三月十四日)抄録
第八條 海軍工廠資金ノ繰入ハ各課計算課長ヲ收入官吏トシ會計部長(會計部長ヲ置カサル課ニ)ヲ繰入徴收官トス但シ計算課長ヲ置カサル課ニ在リテハ其ノ收入官吏ハ別ニ之ヲ命ス
海軍工廠資金ノ繰出ハ仕拂課長ヲ以テ會計部長ニ命示シ之ヲ執行セシム

○海軍省達第十六號

明治三十六年達第百三十四號海軍省所管收入及經費ニ係ル支出收入區分及委任仕拂命令官歳入徴收官收入官吏別表中收入官吏ノ欄海軍造兵廠會計部材料庫主管ヲ「×海軍造兵廠書記」ニ改ム

明治三十九年三月三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第十七號

佐世保鎮守府在籍

汽 船 國 後 丸

右本籍ヲ吳鎮守府ニ改ム

明治三十九年三月三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第十八號

海軍敬禮式中左ノ通改正セララル

明治三十九年三月四日

海軍大臣齋藤實

第五十七條第二項中「第百六十條」ヲ「第百五十九條」第一項第五號ヲ除ク「」ニ改ム
第百六十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ此ノ場合ニ於テハ「國」ノ鎮メノ喇叭一回ヲ吹奏スルモノトス

○海軍省達第十九號

紀念軍艦旗規則左ノ通定ム

明治三十九年三月五日

海軍大臣齋藤實

紀念軍艦旗規則

第一條 各艦艇ニ於テ敵艦隊ト合戦ノ際使用セシ軍艦旗(一戰役ニ付一旂)ハ其ノ經歷及寸法ヲ詳記シ紀念保存ノ爲定數増加ヲ請求スルコトヲ得之ヲ紀念軍艦旗ト稱ス

第二條 紀念軍艦旗ハ其ノ艦艇ノ名譽ヲ表彰スル爲軍艦隊教育資料トシテ保存スルモトス

第三條 紀念軍艦旗ハ現品ニ其ノ名及經歷書ヲ添附シ保管スヘシ

第四條 紀念軍艦旗ハ戰役紀念日及戰死者ノ祭典等ニ際シ之ヲ掲揚若ハ祭壇ニ飾リ尙ホ後來戰陣ノ際ニモ成ルヘク之ヲ掲揚スルモノトス

第五條 定員ヲ置カレサル豫備艦艇ニ在テハ直接其ノ艦艇ヲ保管スル官廳ニ於テ之ヲ保管スヘシ又其ノ艦艇ニシテ艦艇籍ヨリ除カレタルトキハ其ノ籍ヲ管シタル鎮守府ニ於テ之ヲ保管スヘシ

○海軍省達第二十號

海軍上長官士官任用進級取扱規則別表中被拔擢者ノ欄駐在員ノ下ニ「統監附武官」ヲ加ヘ又鎮守府所管團長ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

明治三十九年三月六日

海軍大臣齋藤實

被拔擢者	記	事
統監附武官		
鎮守府		

○海軍省達第二十一號

海軍武官考課表規則別表第二號中左ノ通改正ス

明治三十九年三月六日

海軍大臣齋藤實

海軍省ノ部 被考課官ノ欄駐在員監督ノ下ニ「統監附武官」ヲ加フ

軍令部ノ部 被考課官ノ欄副官ノ下ニ「大使館附武官」ヲ加フ

鎮守府ノ部 被考課官ノ欄直屬艦船長ノ下ニ「直屬司令」ヲ加フ

鎮守府所管艦船ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

職 隊	司 令	
	職 隊 長	右以外部下准士官以上(機關兵曹長ヲ除ク)
機關長ノ職務ヲ行フモノ	機關兵曹長、上等機關兵曹	
分隊長ノ職務ヲ行フモノ	下士(司令乘艦ニ在ケハ司令附下士ヲ含ム)	

要港部及常備艦隊ノ記事欄中「軍艦職員」ヲ「軍艦艦隊逐隊職員」ニ「鎮守府艦船」ヲ「鎮守府艦船逐隊」ニ改ム

常備艦隊ノ部 職 隊 司 令 艦 長 ヲ削ル

備考ノ欄中ニ左ノ號ヲ加フ

四 鎮守府直屬潜水艦隊職員ノ考課表ハ水雷團職員ノ例ニ依ル

○海軍省達第二十二號

海軍准士官下士任用進級取扱規則第一條中「艦隊司令長官」ヲ「艦隊司令長官(司令長官ヲ置カサル艦隊ニ在テハ首府司令官以下ニ改ム)

明治三十九年三月七日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第二十三號

海軍武官増修規則第一條中「艦隊司令長官」ヲ「艦隊司令長官司令長官ヲ置カサル艦隊ニ改ム」ニ改ム

明治三十九年三月七日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第二十四號

海軍武官考課表規則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月七日

海軍大臣齋藤實

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

司令長官ヲ置カサル艦隊ノ首席司令官ハ本條中司令長官ニ關スル規定ヲ準用ス

○海軍省達第二十五號

下士卒定員補充交代規則第五條但書中「艦隊司令長官」ヲ「艦隊司令長官司令長官ヲ置カサル艦隊ニ改ム」ニ改ム

明治三十九年三月七日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第二十六號

捕獲汽船「エカテリノストラブ」外一隻及戰利汽船「スンガリー」外一隻ヲ帝國軍艦ト定メ左ノ通命名セラル

明治三十九年三月八日

海軍大臣齋藤實

捕獲汽船「エカテリノストラブ」

韓 崎

戰利汽船「スンガリー」

滿 州

同 「アンガラ」

松 江
姉 川

○海軍省達第二十七號

軍艦韓崎外三隻ヘ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年三月八日

海軍大臣齋藤實

G Q P V

韓 崎

G Q R C

松 江

G Q P W

滿 州

G Q S K

姉 川

○海軍省達第二十八號

明治三十八年達第十四號達第十五號達第八十六號及達第八十七號ヲ廢シ同年達第七十一號並達第七十二號中姉川丸ノ部及達第八十九號並達第九十號中韓崎丸ノ部ヲ削除ス

明治三十九年三月八日

海軍大臣齋藤實

〔参照〕

明治三十八年二月十日海軍省達第十四號ハ捕獲汽船「マンチユリア」號命名及其本籍、同第十五號ハ汽船滿州丸通信號符字點付、附同年六月五日海軍省達第八十六號ハ戰利汽船「スンガリー」命名及其本籍、同第八十七號ハ汽船松江丸通信號符字點付ナリ

○海軍省達第二十九號

艦艇類別等級別表中海防艦ノ欄内三等ノ下「高雄」ノ次ニ「松江」ヲ、通報艦ノ欄内「千早」ノ次ニ「滿州」姉川ヲ、水雷母艦ノ欄内「豐橋」ノ次ニ「韓崎」ヲ加フ

明治三十九年三月八日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第三十號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「白露」ノ次ニ「初雪」ヲ加フ

第二十三條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ永年使用ノ結果其ノ性能ヲ失シ用途ニ適セサルニ至リシ重要ナラサル兵器ノ引換ヲ要スルモノニ在リテハ毀損報告ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ニ於テ元受若ハ拂出ヲ爲シタルモノアリタルトキ亦同シ

第三十五條ヲ左ノ通改ム

分任兵備品會計官吏若ハ兵備品取扱主任ハ毎月五日迄三前月分ノ消耗兵器受拂現況報告(書式第

二通ヲ作り所屬兵備品會計官吏ニ出シ兵備品會計官吏ハ之ヲ調査シ一通ヲ其ノ月末日迄ニ海軍艦政本部ニ送付スヘシ

第三十六條ヲ左ノ通改ム

分任兵備品會計官吏ハ消耗品拂出簿(書式第八號)兵備品取扱主任ハ兵備品供用簿(書式第九號)及消耗品拂出簿ヲ設ケ消耗品ノ拂出ヲ爲ストキハ監督者若ハ先任者ニ交付シ該簿ニ捺印セシメ備品ヲ各自ノ使用ニ供スルトキハ受領者ノ印ヲ徹スヘシ但シ監督者ニ一併ニ交付スルモ妨ケナシ

第三十七條中(書式第九號)ヲ(書式第十號)ニ改ム

第三十八條ヲ左ノ通改ム

兵備品取扱主任兵器造修試験検査規則第三十六條ニ依リ其ノ取扱ニ係ル彈藥火工品類ノ試験検査ヲ要求シタルトキ其ノ消耗シタルモノニ對シテハ第三十五條及第三十七條ニ依リ報告スヘシ別表第一號中左ノ通加除改正ス

砲銃ノ部

第二種消耗品中發火裝置、隔緣環、常備用空包、夜中照準器用白熱電燈、同用線硝子ヲ第一種消耗品ニ改メ軍樂器用舌ヲ第二種消耗品ニ追加ス

水雷ノ部

第二種消耗品中地板大ヲ備品ニ夜中照準器用白熱電燈、同用線硝子、無線電信用現液粉、同用電鍮用觸著片、同用硝子壺、壓榨唧筒用革間座、水雷用革間座、注油機硝子類、ヲ第一種消耗品ニ改メ、無線電信用現液管、同用安全溶解片、同用開閉器用革紐、距離測定儀及單術所視發孤器用白熱電燈ヲ第一種消耗品ニ追加ス

書式第四號ノ備考ヲ左ノ通改ム

消耗品ハ品名ノ傍ニ「消」ノ字ヲ朱書スヘシ

書式第七號「兵器受拂現況報告」ヲ「消耗兵器受拂現況報告」ニ改メ凡例中第四項ヲ削除ス書式第八號ヲ別紙ノ通改正シ書式第九號ヲ書式第十號ニ改メ書式第九號ヲ別紙ノ通追加ス

(書式略ス)

○海軍省達第三十六號(闕號)

○海軍省達第三十七號(闕號)

○海軍省達第三十八號

明治三十年九月達第一號歲入歲出取扱規程書式中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十日

海軍大臣齋藤實

第十號書式

歲入現況報告書中類別ノ欄及備考ヲ廢ス
第二十五號書式附屬

決算部局別調備考中二及三ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フ

本調書ノ部局名及經費ノ區分ハ明治三十六年三月經一第四八九號經理局長通達ニ依ルヘシ

○海軍省達第三十九號

艦營需品經理規程中第二條ヲ左ノ通改ム

第二條 本規程ニ於テ艦團共ノ他各部ト稱スルハ艦船海兵團水雷團要港部砲術練習所共ノ他軍隊

組織ノ部隊並學校水雷術練習所機關術練習所主計官練習所及港務部所屬ノ船艇ヲ謂フ

本達ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月二十三日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

海軍省達第九十三號艦營需品經理規程(明治三十六年九月二十九日抄錄)

第二條 本規程ニ於テ艦團共ノ他各部ト稱スルハ艦船海兵團水雷團要港部砲術練習所共ノ他軍隊組織ノ部隊並學校機關術練習所主計官練習所及港務部所屬ノ船艇ヲ謂フ

○海軍省達第四十號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「時雨」ノ次ニ「夕立」ヲ加フ

明治三十九年三月二十七日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四十一號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十七日

海軍大臣齋藤實

第三百二十五條中「陸上勤務外宿」ノ下ニ「及望樓勤務」ヲ加フ

第三百二十六條 給與令第八十七條第三號ノ場合ニ於テ同令第八十九條但書ニ依リ驅逐艦乗員ニ割

増食料ヲ支給スルハ該艦所屬驅逐隊主計長ノ乗艦ヲ離レ自ラ糧食ヲ調辦スルトキニ限リ、水雷

艇乗員ニ割増食料ヲ支給スルハ該艇所屬ノ部團所在地外ニ於テ自ラ糧食ヲ調辦スルトキ又ハ部

團所在地ニ於テ該部團ヨリ糧食ノ配給ヲ受クルコト能ハサルトキニ限ルモノトス

驅逐艦及水雷艇ノ乗員陸上ニ在ルトキハ割増食料ヲ支給セズ

○海軍省達第四十二號

望樓手當ヲ支給スヘキ場所及金額別表ノ通定ム

本達ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月二十七日

海軍大臣齋藤實

宗谷、龍飛	宗谷、龍飛	望樓手當	
		金額	手當
尻矢、細見、佐多	六	圓	五
金澤山、日ノ御崎、足摺、都井、志白岐、經ヶ岬、皆月、美保、西郷、神埼、神埼	五	圓	四
布瓦、長津島、大王、潮岬、六連島、角島、大嶽、野母	四	圓	三
	三	圓	二

○海軍省達第四十三號

捕獲汽船廣南ヲ廣南丸ト命名シ其本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

明治三十九年三月 海軍省第四十三號 第四十三號

明治三十九年三月三十日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四十四號

汽船廣南丸ニ左ノ通り信號符字ヲ點付ス

明治三十九年三月三十日

海軍大臣齋藤實

G Q W N

廣南丸

○海軍省達第四十五號

教育圖書供給規程第一條及第五條中「水雷術練習所」ヲ除ク
本達ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月三十日

海軍大臣齋藤實

〔参照〕

海軍省達第四十六號教育圖書供給規程(明治三十八年三月三十日)抄録

第一條 本規程ニ於テ教育圖書ト稱スルハ艦團其他各部ニ要スル教育圖書ヲ指フ

艦團其他各部ト稱スルハ艦船海兵團、水雷團、要港部、砲術練習所、水雷術練習所、艦隊幕僚、驅逐隊司令、艦隊司令及特設船
砲術隊ヲ指フ

第五條 艦團其他各部ニ要スル教育圖書ハ所管者ハ在籍鎮守府海軍測器庫之ヲ供給ス

積須賀海軍測器庫ハ砲術練習所、水雷術練習所ニ佐世保海軍測器庫ハ艦隊幕僚、艦隊附屬驅逐隊司令及艦隊司令、要港部ニ
教育圖書ヲ供給ス

海軍測器庫ハ他鎮守府在籍ノ艦船及艦隊幕僚等ニ教育圖書ヲ供給スルコトヲ得

○會計検査院達第一號

明治三十四年五月會計検査院達第二號租稅徵收願證明規程中左ノ通改正ス

明治三十九年三月二十六日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

第三條中「砂糖消費稅」ノ下ニ「相續稅」ヲ加フ

第四條第九號中「沖繩縣及」ヲ削ル

第九條第一號及第二號ヲ左ノ通改ム

- 一 鑛產稅ハ當該官廳ノ鑛產物價格通知書
- 二 採掘鑛區稅及試掘鑛區稅ハ鑛業權ノ設定、變更若クハ消滅ニ係ルモノアルトキハ當該官廳ノ通知書

第十二條ノ二 相續稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

- 一 相續稅法第十三條及第二十二條ニ依ル課稅價格ノ決定ニ關スル書類並相續稅法施行規則第一條ニ依リ相續人、遺言執行者又ハ相續財產管理人ノ提出シタル書類但シ相續稅ノ免除ニ係ルモノアルトキハ其決議書類トモ
 - 二 相續稅法第十五條ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ其決定ニ關スル書類
 - 三 相續稅法第十六條ニ依リ決定シタルモノアルトキハ其裁決書又ハ裁判宣告書ノ謄本
 - 四 相續稅法第九條ニ依リ稅率ノ適用ヲ改訂シタルモノアルトキハ其關係書類
 - 五 相續稅法第十七條ニ依リ稅金ノ延納ヲ許可シタルモノアルトキハ其關係書類
- 第十四條ノ二中「砂糖消費稅」ノ下ニ「及相續稅」ヲ加ヘ「有價證券」ヲ「擔保物件」ニ改ム
- 第一號書式內譯中「鑛業稅」ヲ「鑛產稅」ニ其摘要ノ「金」ヲ「銅」ニ「銀」ヲ「錫」ニ「鑛區稅」ヲ「採掘鑛區稅」ニ其備考ノ「掘鑛ヲ要セス」ヲ「一千坪ニ切上ケ計算スヘシ」ニ改メ表紙備考ノ「沖繩縣及」ヲ削ル
- 第一號書式內譯沖繩縣酒類出港稅ノ次ニ左記相續稅ノ一欄ヲ加フ

續 稅															計	備 考	
課稅價格 四萬圓以下			課稅價格 五萬圓以下			課稅價格 七萬圓以下			課稅價格 十萬圓以下			課稅價格 十五萬圓以上			人員		稅額
人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格			
															計		備考
															計		備考
															計		備考
															計		備考
															計		備考
															計		備考

本表ニ於テ第一種、第二種、第三種ト稱スルハ相續稅法第八條稅率欄ノ相繼人ノ種類ノ順序ニ依ルモノトス
 相續稅法第十條ニ依リ相續稅ヲ免除シタルモノハ備考ニ内稱掲記スヘシ
 相續稅法第十二條ニ依リ課稅價格ヲ決定シタルモノハ備考ニ内稱掲記スヘシ
 相續稅法第十三條ニ依リ遺產相續ニ係ルモノハ備考ニ内稱掲記スヘシ
 相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルモノハ備考ニ内稱掲記スヘシ

相

補 要	課稅價格 千圓以下			課稅價格 五千圓以下			課稅價格 一萬圓以下			課稅價格 二萬圓以下			課稅價格 三萬圓以下		
	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格	人員	稅額	課稅價格
家督相續 第一種 第二種 第三種															
	計														
遺產相續 (以下前同ニ依フ)															
	計														
合計															

第七號書式表紙備考ニ左ノ一項ヲ加フ
 一相續稅法施行規則第二十一條ニ依リ擔保物件ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ本書式ニ依ルヘシ

〔參照〕

會計檢査院第二號租稅徵收願證明規程(明治三十四年五月二日)抄錄
 第三條 歲入徵收額計算書ニハ第二號書式乃至第七號書式ニ依リ調整シタル額定額超過額、調定不足額及徵收檢豫證明

細冊、年功地及地換地明細書、收入未済額明細書、滞納處分金明細書、砂糖消費稅擔保品處分明細書ヲ添付スヘシ

第四條 地租ニ關スル證據書類左ノ如シ
九 沖繩縣及伊豆七島ニ在リテハ土地異動ニ依リ増減ヲ生シタルモノハ其決議書類石代納ノモノハ石代平均相場書臨時交換納ノモノハ其出願書

第九條 鹽稅ニ關スル證據書類左ノ如シ

一 鹽稅ニハ續業條例第三十九條ニ依レル屆書

二 鹽稅ニハ新規特許増區合併、分割及廢業又ハ特許取消ニ係ルモノアルトキハ當該官廳ノ通知書

第十四條ノ二 砂糖消費稅擔保ノ處分ニ關スル證據書類ハ有價證券公賣ニ係ル契約書但契約書ナキモノハ其決議トス

○會計検査院達第一號

鹽專賣法第四十四條ニ依ル鹽稅徵收額證明方左ノ通定ム

明治三十九年三月二十六日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

一 租稅徵收額計算書備考ニ鹽ノ査定數量ヲ附記スヘシ

一 鹽稅延納ニ對スル擔保物件ノ處分ヲ爲シタルモノアルトキハ砂糖消費稅擔保品處分明細書ノ例ニ依リ明細書ヲ調製提出スヘシ

一 鹽稅徵收ニ關スル證據書類ノ提出ヲ要スルモノハ特ニ之ヲ指定スヘシ

○宮内省達甲第二號

明治二十五年八月十日 宮内省達甲第五號華族就學規則左ノ通改正ス

明治三十九年四月九日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

華族就學規則

第一條 華族ノ男子ニシテ年齡滿六年以上滿二十年以下ニ在ル者ハ本則ニ遵ヒテ修學スルコトヲ要ス

第二條 華族ノ戸主又ハ之ニ對シ親權ヲ行フ者若ハ其ノ後見人ハ前條規定ノ年齡者ヲシテ本則ニ依リ修學セシムル義務ヲ負フヘシ

第三條 第一條規定ノ年齡者ハ學習院ニ入りテ初等學科中等學科ヲ履修スルコトヲ要ス
已ムコトヲ得サル理由アリテ學習院ニ入學シ難キ者ハ官立公立小學校若ハ之ニ代用スル私立小學校及ヒ官立府縣立ノ中學校ニ於テ其ノ科程ヲ修了スルコトヲ要ス

陸軍地方幼年學校若ハ同中央幼年學校豫科及ヒ其ノ本科ノ科程ハ本則ニ於テ相共ニ合シテ之ヲ官立中學校ノ科程ト看做ス

師範學校又ハ公立私立ノ實業學校其ノ他專門學校ニ非サル學校ニシテ文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條又ハ文官任用令第三條ニ關シ官立府縣立中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタルモノハ本則ニ於テ府縣立中學校ニ準スルコトヲ得

第四條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前條規定ノ科程ヲ履修スルコト能ハス特別ノ方法ヲ以テ教育スルコトヲ要スルトキハ其ノ修學ノ場所期間學科目教師タル者ノ姓名等ヲ詳具シテ第二條規定ノ

義務者ヨリ宮内大臣ニ申シ出テ其ノ許可ヲ請クヘシ但シ其ノ疾病ニ係ル者ハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘシ

海外ニ於テ修學セントスル者ハ其ノ留學スヘキ國名地名學校並ニ科程若ハ教師學科等ノ名目ヲ詳記シ第二條規定ノ義務者ヨリ之ヲ宮内大臣ニ申シ出テ其ノ許可ヲ請クヘシ

第五條 學習院ヲ除ク外第三條規定ノ各學校ニ入學シタル者ハ其ノ必要ノ事由並ニ學校ノ名稱位置官立公立私立等ノ別入學ノ年月日ヲ詳記シ其ノ學校長ノ本人在學證明書ヲ添ヘテ第二條規定ノ義務者ヨリ直ニ之ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ其ノ轉學ノ際モ亦之ニ準ス

前項ノ在學者半途ニシテ退學シタルトキハ第二條規定ノ義務者ヨリ直ニ之ヲ爵位局長ニ届出テ速ニ本則ノ範圍内ナル他ノ學校ニ入學セシメ學習院以外ナルトキハ復タ同様届出ノ手續ヲ踐ムヘシ

前掲ノ各學校ヲ卒業シタルトキハ其ノ學校長ノ本人卒業證明書ヲ添付シ第二條規定ノ義務者ヨリ之ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ但シ陸軍中央幼年學校卒業ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第六條 第一條規定ノ學齡中ニ在リト雖モ學習院中等學科其ノ他第三條ニ規定シタル中學校程度ノ科程ヲ卒業セシ者ハ勿論然ラサルモ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ該科程ヲ修了シタルモノト看做シ本則ニ於ケル義務ヲ解除ス

- 一 陸軍各兵科士官候補生又ハ同主計候補生ニ採用セラレタル者
- 二 海軍兵學校生徒同機關學校生徒ニ採用セラレタル者
- 三 帝國大學各分科大學高等學校高等師範學校專門學校令ニ依レル官立公立私立ノ各種專門學校本科ノ學生ト成リシ者但シ其ノ公立私立ノ學校ニ係ル者ハ第二條規定ノ義務者ヨリ其ノ

學校長ノ本人在學證明書ヲ添付シ之ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ

四 第二條ニ規定セル義務者ノ申請ニ因リ宮内大臣ニ於テ海外ニ在リテ學習院中等學科以上ノ科程ヲ修了セリト認定セシ者

五 判任官以上ノ官吏ニ任用セラレタル者

但シ第二條規定ノ義務者ヨリ其ノ敘任ノ辭令書寫ヲ添ヘテ之ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ

第七條 初メテ學齡ニ達シタル後一箇年ヲ經ルモ猶就學スルコトヲ得サル者又ハ到底就學スルコト能ハサル者既ニ就學セシ後六箇月以上引キ續キ休學ヲ要スル者又ハ廢學ヲ要スル者ハ各其ノ事由ヲ詳具シ第二條規定ノ義務者ヨリ之ヲ宮内大臣ニ申シ出テ其ノ認可ヲ請クヘシ但シ其ノ疾病ニ係ル者ハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘシ

第八條 本則ニ依リ修學スル者ハ學習院在學者ヲ除ク外毎年一回學年ノ終リニ當リ其ノ修學ノ成績ヲ一箇月以内ニ第二條規定ノ義務者ヨリ爵位局長ニ届出ツヘシ但シ海外ニ留學セル者ニ在リテハ其ノ期間ヲ三箇月トス

第九條 華族ノ女子ノ就學ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

○宮内省達甲第三號

明治三十九年四月十一日ヨリ華族女學校ヲ學習院ニ併合ス

明治三十九年四月九日

奉 勅

○宮内省達甲第四號

學習院學制左ノ通定ム

宮内大臣子爵田中光顯

明治三十九年四月九日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

學習院學制

第一條 學習院ハ

兩陛下ノ 優旨ニ基キ華族ノ子女ニ普通ノ教育ヲ施シ華族タルノ徳性ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第二條 學習院ニ男子學生ノ爲メ初等學科中等學科ヲ置キ其ノ修業年限ハ各六年トス

初等學科中等學科ハ各分チテ六級トシ一級ノ修學期限ハ一年トス

第三條 中等學科ヲ卒業シタル學生ノ爲メ補修科ヲ置キ其ノ修業年限ハ二年トス

第四條 學習院ニ女子學生ノ爲メ女學部ヲ設ク

第五條 女學部ニ小學科中學科ヲ置キ其ノ修業年限ハ小學科六年中學科五年トス

小學科ハ分チテ六級トシ中學科ハ分チテ五級トス一級ノ修學期限ハ一年トス

第六條 女學部ニ中學科ヲ卒業シタル學生ノ爲メ專修科ヲ置ク其ノ修業年限ハ三年トス

第七條 中等學科補修科及女學部中學科專修科ノ學生ニシテ體質虛弱年齡過長等ノ理由ニ依リ定則ノ課業ヲ受クルコト能ハサル者ハ別科生トシテ特別ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 女學部ニ幼稚園ヲ置キ華族ノ幼兒ヲ保育セシム

第九條 學習院ハ華族ノ子女ニ非サル者ト雖モ特ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

附 則

第十條 此學制ハ明治三十九年四月十一日ヨリ施行ス

第十一條 此學制施行ノ爲メ必要ナル規則ハ宮内大臣之ヲ定ム

第十二條 現在ノ高等學科ハ之ヲ履修スル年期限内ニ在ル學生及明治三十九年九月ニ於テ同科ニ入ルヘキ學生ノ爲メ之ヲ存ス其ノ修業年限、學級及一學級ノ修學期限ハ従前ノ規則ニ依ル

第七條ノ規定ハ高等學科ニ準用スルコトヲ得

第十三條 第三條ニ規定シタル補修科ハ當分ノ内之ヲ置カサルコトヲ得

○宮内省達甲第五號

明治三十一年ハ宮内省達甲第五號學習院官制左ノ通改正ス

明治三十九年四月九日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

學習院官制

第一條 學習院ハ宮内大臣ノ管理ニ屬シ學習院學制ノ定ムル所ニ依リ男女ノ學生教育ノ事ヲ掌ル

第二條 學習院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長

女學部長

主事

書記

第三條 院長ハ一人勅任トス院務ヲ統理シ兼テ職員ヲ監督ス

第四條 女學部長ハ一人二等トシ教授ノ内ヨリ之ニ兼任ス院長ノ命ヲ承ケ女學部ノ事ヲ掌理ス

- 第五條 主事ハ二人奏任トシ教授ノ内ヨリ之ニ兼任ス上官ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス
- 第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第七條 學習院ニ教授學生監助教授ヲ置ク
教授ハ六十五人勅任又ハ奏任トシ院長ノ命ヲ承ケ學生教授ノ事ヲ分掌ス
學生監ハ二人奏任トシ教授ノ内ヨリ之ニ兼任ス院長ノ命ヲ承ケ學生ノ紀律ニ關スル事ヲ分掌ス
助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク
- 第八條 院長ハ所管ノ事務ニ關シ必要アルトキハ囑托員ヲ置クコトヲ得其ノ奏任以上ノ待遇ニ係ルモノニ付テハ宮内大臣ニ具申スヘシ
- 第九條 院長ハ前條ノ囑托員ニ報酬ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 院長ハ教育上ノ規律ニ關シ必要ナル規程及處務細則ヲ定ムルコトヲ得但宮内大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 院長、勅任教授ノ俸給ハ宮内省官制第五十條高等官俸給表ニ奏任教授ノ俸給ハ同上技術官俸給表ニ書記ノ俸給ハ同條屬ノ俸給表ニ助教授ノ俸給ハ同條技手ノ俸給表ニ依ル
- 第十二條 教授助教授ニハ學科ノ種類職務ノ繁簡ニ依リ俸給表以外ノ俸給ヲ給スルコトヲ得但其ノ官等相當ノ最高額ヲ超ニルコトヲ得ス
- 附則
- 第十三條 此官制ハ明治三十九年四月十一日ヨリ施行ス
- 第十四條 此官制ニ別段ノ規定ナキモノハ宮内省官制ニ依ル
- 第十五條 明治十九年二月宮内省達第二號ハ此官制施行ノ日ヨリ廢止ス

○宮内省達甲第六號

明治二十二年七月宮内省達第十號宮内省官制第四十二條中侍醫ノ定員十六人トアルヲ十七人ニ改ム

明治三十九年四月二十五日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省達乙第五號
學習院規則左ノ通定ム

明治三十九年四月九日

宮内大臣子爵田中光顯

學習院規則

- 第一條 學習院初等學科中等學科及高等學科ノ各相當年齡ハ左ノ如シ
初等學科 滿六年ヨリ滿十二年マテ
中等學科 滿十二年ヨリ滿十八年マテ
高等學科 滿十八年ヨリ滿二十一年マテ
- 第二條 初等學科ノ教課ハ左ノ如シ
國語 英語 算術 歴史及地理 自然ノ觀察 圖畫 手工 唱歌 體操
- 第三條 中等學科ノ教課ハ左ノ如シ
國語 外國語 歴史及地理 數學 博物 物理及化學 圖畫 唱歌 武課
- 第四條 高等學科ノ教課ハ左ノ如シ
國語及漢文 外國語 歴史 法制及經濟 哲學 數學 物理學 化學 地質及礦物 動物及植物 測量 圖畫 武課

第五條 女學部各學科ノ相當年齡ハ左ノ如シ

小學科 滿六年ヨリ滿十二年マテ
中學科 滿十二年ヨリ滿十七年マテ
專修科 滿十七年ヨリ滿二十年マテ

第六條 女學部小學科ノ教課ハ左ノ如シ

國語 英語又ハ佛語 算術 歴史及地理 自然ノ觀察 圖畫 音樂 手藝 體操

第七條 女學部中學科ノ教課ハ左ノ如シ

國語 英語又ハ佛語 歴史及地理 數學 博物 物理及化學 圖畫 家政 裁縫 音樂 體操

第八條 女學部專修科ハ之ヲ分チテ文學部、技藝部トス文學部ヲ分チテ國文科、英文科、佛文科トシ

技藝部ヲ分チテ裁縫及刺繡科、繪畫及習字科、音樂科トス其ノ教課ハ左ノ如シ

文學部

國文科	倫理	國文學	英語又ハ佛語	歴史	心理及教育	理科	經濟	刺繡	習禮	習禮	體操
英文科	倫理	國語	英文學	歴史	心理及教育	理科	經濟	刺繡	習禮	習禮	體操
佛文科	倫理	國語	佛文學	歴史	心理及教育	理科	經濟	刺繡	習禮	習禮	體操
技藝部	裁縫及刺繡科	倫理	國語	心理及教育	理科	經濟	裁縫	刺繡	習禮	習禮	體操
	繪畫及習字科	倫理	國語	心理及教育	理科	經濟	繪畫	習字	習禮	習禮	體操
	音樂科	倫理	國語	心理及教育	理科	經濟	唱歌	箏又ハ洋琴	習禮	習禮	體操

體操

第九條 別科生ハ定則ニ據ラスシテ中等學科、高等學科及女學部中學科、專修科ノ教課中一課若ハ

第十條 幼稚園ハ男女共ニ滿三年ヨリ滿六年マテヲ相當年齡トス

第十一條 幼稚園ニ於テハ幼兒ノ心身ヲシテ健全ニ發達セシメ善良ナル習慣ヲ養成シ家庭教育ヲ

第十二條 學習院ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十三條 一學年中ノ休業日ハ日曜日並ニ列記シタル祝日祭日トス

神武天皇祭

靖國神社大祭

皇后陛下御誕辰

秋季皇靈祭

神嘗祭

開院紀念式 十月十八日

天長節

新嘗祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

第十四條 四月一日ヨリ同月十日マテヲ春季休業トシ七月十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテヲ冬季休業トス

第十五條 女學部ニ在リテハ前二條ノ外十一月十三日ヲ以テ紀念日トシ休業セシム

第十六條 各科ノ教課ヲ修了シタル者ニハ院長ニ於テ卒業證書ヲ附與ス但別科生ニシテ其ノ教課ヲ修了シタルトキハ修了證書ヲ附與ス

第十七條 學習院各科ニ入學ノ期ハ總テ學年ノ始トス但其他ノ時期ニ於テ特ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條 入學ヲ許可スルハ左ニ記載シタル各號ノ一ニ該當セスシテ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ニ限ル但初等學科若ハ女學部小學科ノ最下級ニ入學スル者ハ學術試験ヲ要セス

- 一 品行不良ナルモノ
- 一 成業ノ見込ナキモノ

第十九條 華族ニ非スシテ入學ノ爲メ學術試験ヲ受クル者ニ對シテハ左ノ區別ニ依リ受験手数料ヲ徴收スヘシ

中等學科及女學部中學科

壹圓五拾錢

女學部專修科

參圓

第二十條 女學部學生及華族ニ非サル學生ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ學期毎ニ授業料ヲ徴收スヘシ

初等學科及女學部小學科

一學期ニ付 五圓

中等學科及女學部

一學期ニ付 六圓

高等學科及女學部

一學期ニ付 七圓

第二十一條 幼稚園ニ入園シタル者ニ對シテハ保育料トシテ一年拾貳圓ヲ徴收スヘシ

第二十二條 院長ハ學術優等品行方正ニシテ他ノ模範トナルヘキ學生ニ對シテハ期間ヲ定メテ特ニ授業料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條 既ニ徴收シタル授業料受験手数料及保育料ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ返付スルコトナシ

第二十四條 止ムコトヲ得サル事由アル場合ノ外修學中學生ニ退學ヲ許可スルコトナシ

第二十五條 學生中疾病其他ノ事由ニ依リ成業ノ見込ナキモノ又ハ品行不良ニシテ陶冶ノ見込ナキモノハ院長之ヲ除名スルコトヲ得授業料ノ納付ヲ怠リ督促ヲ受クルモ尙ホ納付セサルトキ亦同シ

第二十六條 學生ニシテ學習院ノ規律ヲ犯シ又ハ風紀ヲ紊ルトキハ院長之ヲ懲罰スルコトヲ得懲罰ノ方法ハ罷責、退場、留置、停學、放院ノ五種トス

第二十七條 院長ハ放院ヲ除ク外他ノ職員ヲシテ懲罰ノ處分ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條 院長ハ本則施行ノ爲メ必要ナル規程ヲ設クルコトヲ得但宮内大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第二十九條 院長ハ第十六條、第十八條、第二十四條乃至第二十六條ノ規定ニ依リ華族ノ學生ニ對シ入學ヲ許可シ又ハ許可セサルトキ、退學ヲ許可シタルトキ、除名シタルトキ及卒業證書若ハ修

了證書ヲ附與シタルトキ放院ノ處分ヲナシタルトキハ宮内大臣ニ報告スヘシ

附則

第三十條 此規則ハ明治三十九年四月十一日ヨリ施行ス

第三十一條 明治二十三年^七宮内省達第十五號學習院學則及明治二十六年^八宮内省達乙第四號華族女學校規則明治二十七年^二宮内省達乙第一號華族女學校幼稚園規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十二條 高等學科並現在ノ中等學科ノ最上級ノ學生ニ付テハ其ノ學年學期ハ第十二條ノ規定ニ拘ハラヌ從前ノ規則ニ依ル

○陸軍第二十九號

明治三十年陸軍第九十七號裝飾及別毛器械定數表中左ノ通追加ス

明治三十九年四月五日

陸軍大臣寺內正毅

裝飾及別毛器械定數表中騎兵第十二聯隊ノ次ハ第十七第十八第十九第二十ヲ加フ

○陸軍第三十號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十三日

陸軍大臣寺內正毅

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

觀兵式又ハ儀仗服務ノトキ又ハ軍隊靖國神社參拜ノトキニモ軍裝ヲ著用セシムルコトヲ得

第九條ノ二 將官同相當官ニシテ佐官以下ノ各級將校ト會同スル場合ニ於テハ通常禮裝及軍裝ニ限リ茶褐色制服ヲ用ウルモノトス

第九條ノ三 外套雨襪及夏外套ヲ除クノ外茶褐色制服ト其ノ他ノ制服ト混用スルコトヲ得ス

第十條中略裝ニ用ウルヲ正則トスト雖軍裝及通常禮裝ニモ亦^レ略裝軍裝及通常禮裝ニ^レ改ム

第十一條 茶褐色夏袴ハ茶褐色衣ヲ著スルトキニ限リ著用スルモノトス

將官同相當官ノ白色夏袴ハ暑中何レノ服裝ニ在リテモ著用スルコトヲ得但シ正裝ニテ室内ニ於ケル儀式等ニ列スルトキハ必ス袴ヲ著用スヘシ

第十九條 刀ハ將校之ヲ佩用ス但シ軍隊ノ長ニ非サル將官同相當官ハ刀ニ換フルニ劍ヲ以テスル

コトヲ得

第二十四條 短袴^{暑中ニ在リハ何レノ服裝ニ在リテモ長靴ヲ穿ツトキ著用スルモノトス}短袴^{テハ夏短袴}ヲ著用スルトキハ第十一條ノ例ニヨル

第三十五條中帽ハ第一種第二種ノ何レヲモ用非^レヲ削ル

第四十一條中第一種帽ヲ^{將官同相當官ニシテ明治三十三年勅令第三百六十四號ノニ改ム}第二種帽^{軍裝同相當官ニシテ明治三十三年勅令第三百六十四號ノニ改ム}平衣袴ヲ用ウルトキ及第二種帽ノ制ナキモノハ第一種帽^{ノニ改ム}

第四十三條 刀劍ハ何レノ服裝ヲ論セス衣ノ上ニ佩フヘシ又外套ヲ著スルトキハ總テ之ヲ其ノ上

ニ佩フヘシ

第四十七條 防寒襟ハ支給セラレタル部隊ニ限リ嚴寒ノ際用ウルモノトス

第四十七條ノ二 茶褐色制服ト同制式ノ紺色制服ハ茶褐色制服ト同一ニ使用ス但シ茶褐色制服ト

混用スルコトヲ得ス

第四十八條中第一種帽ヲ^{第二種帽ノ制ナキモノニ改メ前立ノ下ニ第一種帽ヲ用ウルノ制}第二種帽^{ハ第一種帽ヲ用ウルノ制}ニ改メ前立ノ下ニ第一種帽ヲ用ウルノ制

註ヲ加ヘ但書ヲ削ル

第四十九條第三號中「頁半ヲ肩章」ノ割註及第七號ヲ削リ第八號中「衛生部軍吏部」ヲ「經理部衛生部」ニ改ム

第五十條中第一號及第七號割註中「縫工長靴工長及」ヲ削リ第八號中「時宜ニ依リ」ノ下ニ「携帶天幕」及「ヲ加ヘ」第十三號ヲ削ル

第五十二條中「見習士官」ノ下ニ「見習主計ヲ加ヘ」見習軍吏ヲ削ル
第五章 削除

第五十六條ノ次ニ左ノ附則ヲ加フ
附則

第五十七條 佐尉官同相當官准士官ノ三十二年制外套雨覆及夏外套ハ當分ノ内他ノ制服ト混用スルコトヲ得

第五十八條 佐尉官同相當官准士官樂長及樂長ノ三十二年制帽衣袴ハ本年六月盡日迄通常禮裝軍裝略裝ニ之ヲ使用シ其ノ以後ハ略裝ニ限り當分ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第五十九條 佐尉官同相當官准士官ノ三十二年制第二種帽及衣袴ハ來ル六月盡日迄從前ノ規定ニ依リ茶褐色制服ト混用スルコトヲ得

第六十條 下士以下平樂部ノ三十二年制制服ハ本年九月盡日迄從前ノ規定ニ依リ正裝軍裝略裝ニ之ヲ使用シ其ノ以後ハ憲兵及騎兵ニ限り略裝ニノミ當分ニ之ヲ使用スルコトヲ得

○陸軍第三十一號
刑ノ執行猶豫ニ關スル法律實施ノ儀ニ付陸軍軍人軍屬ニ關スル取扱手續左ノ通定ム

明治三十九年四月十九日 陸軍大臣寺內正毅

一 刑ノ執行猶豫中ノ者陸軍軍人(現役軍人召集中ノ軍人志願ニ因リ國民軍編入中ノ者)軍屬ト爲リタル旨裁判所檢事ヨリ通知アリタルトキハ師團長又ハ所屬長官ハ之ヲ本人所屬ノ部隊長ニ通知スヘシ

爾後本人ノ所屬ニ異動アリタルトキハ其ノ都度舊所屬長官ヨリ新所屬長官ニ其ノ者ノ刑ノ執行猶豫中ナル旨ヲ通知シ尙軍人ニ在リテハ其ノ旨ヲ本籍地ノ師團長ニ通知スヘシ

二 左ノ場合ニ在リテハ所屬長官之ヲ本人ノ所在地(若シ本人内地ニ在ラサルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ内地ニ於ケル其ノ者ノ最終所在地)ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事局ニ通知スルト同時ニ軍人ニ在リテハ本籍地ノ師團長ニ通知スヘシ

一 猶豫中ノ陸軍軍人軍屬ニ猶豫取消ノ事由アルトキ

一 猶豫中ノ陸軍軍人軍屬其ノ身分ヲ失ヒ現役ヲ終リ召集若ハ編入ヲ解除セラレタルトキ

三 陸軍監獄ヲ管轄スル長官ハ檢事ヨリ猶豫セラレタル刑ノ執行ノ囑託ヲ受ケタルトキハ陸軍監獄條例及之ニ關スル法規ニ依リ陸軍監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲スヘシ

○陸軍第三十二號
滿洲及韓國駐劄諸部隊ニ關スル馬匹ハ主トシテ其ノ駐劄地方產出ノ糧秣ヲ用ヒテ飼養スヘシ其ノ定額及代用飼料ノ換算率當分ノ内左ノ通定ム

明治三十九年四月二十一日 陸軍大臣寺內正毅

第一 各種馬匹(清國產馬匹ヲ除ク)ノ代用飼料ハ各其ノ平時定額ニ據リ之ヲ換算ス

第二 清國產馬匹一頭一日ノ額左ノ如シ
高粱 二升八合 増飼料ハ四分ノ一以内トス

粟稈(敷料共)二貫匁

第三 代用飼料ノ換算率左ノ如シ但シ日量計算上一合又八十匁未満ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切

捨

高粱八合ヲ大麥一升ニ換算ス

大豆五合ヲ大麥一升ニ換算ス

豆餅二百匁ヲ高粱一升ニ換算ス但シ豆餅ハ日量二百匁以上ヲ代用スルコトヲ得ス

粟稈及稗稈ハ乾草又ハ藁ト同量トス

第四 前項以外ノ代用飼料ヲ用ルトキハ前項ノ要領ニ準據シ關東總督又ハ韓國駐節軍司令官適宜

其ノ換算量ヲ定ムヘシ

第五 現地調辦ノ馬糞ノ價格ハ別ニ定ムル標準額ヲ超過スルコトヲ得ス

○陸軍第三十三號

陸軍武官進級取扱規則中ノ拔擢期及拔擢名簿進達期本年ニ限リ左ノ通り變更スルコトニ定メラル

明治三十九年四月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

一 第六條ノ拔擢時期三月ヲ五月トス

二 拔擢圖例第三ノ進達期三月三十一日ヲ五月三十一日トシ五月三十一日ヲ六月三十日トシ同圖

例第四ノ進達期三月三十一日ヲ五月三十一日トス

○陸軍第三十四號

砲工兵科士官ノ陸軍大學校學生候補者タル資格ニ關シ左ノ通定ム

明治三十九年四月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

一 砲工兵科士官ニシテ三十七八年戰役ノ爲二年以上隊務ニ服シタル者ト雖砲工學校ヲ卒業セサル者ハ陸軍大學校學生候補者ト爲スコトヲ得ス

二 砲工學校卒業者ニシテ明治三十八年迄ニ少尉ニ任官シタル者ニ限リ明治三十八年陸軍第六十

三號ノ期日以後大尉ニ任官シタル者ト雖卒業後二箇年間陸軍大學校學生候補者ト爲スコトヲ

得但シ陸軍大學校入學當年七月一日調ニテ大尉ノ停年二年ヲ超ユル者ハ此ノ限ニ在ラス

○陸軍第三十五號

陸軍運輸部本部青森出張所ヲ小樽ニ移轉シ本年五月十五日ヨリ業務ヲ開始ス

明治三十九年四月二十八日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省達第三十六號

雇員備人規則第二條左表技生ノ部領守府機關部ヲ領守府ニ改ム

本達ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

明治三十九年三月十九日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四十六號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「夕立」ノ次ニ「響」ヲ加フ

明治三十九年四月一日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第四十七號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月一日

海軍大臣齋藤實

第二條左表技生ノ部「測器庫」ノ次ニ「海軍煉炭製造所」水雷術練習所ヲ加フ

同 坑内取締ノ部「採炭所」ノ次ニ「海軍煉炭製造所」ヲ加フ
 第三條左表割烹ノ部「砲術練習所」ノ次「水雷術練習所」ヲ削リ「病院」ノ次ニ「水雷術練習所」ヲ加フ
 同 從僕ノ部「水雷術練習所」ヲ削ル
 同 剃夫ノ部「砲術練習所」ノ次「水雷術練習所」ヲ削リ「機關術練習所」ノ次ニ「水雷術練習所」ヲ加フ
 同 印刷工ノ部「砲術練習所」ノ次及「水雷術練習所」ヲ削リ「造船工練習所」ノ次ニ「水雷術練習所」ヲ加フ
 同 倉庫丁ノ部「海軍採炭所」ノ次ニ「海軍煉炭製造所」ヲ加フ
 同 電話丁ノ部「鎮守府經理部」ノ次ニ「海軍工廠」ヲ加フ
 同 給仕ノ部「水雷術練習所」ヲ削ル
 同 大工ノ部「鎮守府經理部」ノ次ニ「海軍兵學校」ヲ加フ
 別表中豊橋ノ欄ヲ左ノ通り改ム

豊橋	從僕	給仕	仕制	夫制	煮
一	一	七	二	二	一

同表宗谷ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

香取	鹿島	筑波	神崎
一	一	一	一
八	八	八	八
四	四	四	二
一	一	一	一

蒲州	松江	妙川
一	一	一
三	三	五
一	一	二
一	一	一

同表中水雷術練習所ノ欄ヲ削ル

同表備考第五號ヲ左ノ通り改ム

五 軍艦ニ特別定員ヲ附キ又ハ未成艦ニ人員ヲ附クトキハ本表ノ人員中ニ名以上ノモノハ其中數以下水雷術練習所ノ二名ニ減スルモノトス

同表備考第六號中「水雷術練習所」ヲ削リ「三名」ヲ「三名」ニ改ム

○海軍省達第四十八號

雇員備入規則別表姉川ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

明治三十九年四月一日

海軍大臣齋藤實

關東丸	從僕	給仕	仕制	夫制	煮
一	一	三	一	一	一

○海軍省達第四十九號

明治三十七年達第八十一號賑恤金表ヲ左ノ通り改正ス

明治三十九年四月九日

海軍大臣齋藤實

賑恤金表

條同	者ル當ニ一第條四十第法給恩八軍										種類	
	第一款		第二款		第三款		第四款		第五款		別	官
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症		
第二款	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	二等	下
第一款	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	三等	任
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	四等	官
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	海軍一等卒	
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	海軍二等卒	陸軍上等卒
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	海軍三等卒	陸軍一等卒
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	海軍四等卒	陸軍二等卒
	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症	海軍五等卒	

第 二 款					
第三款		第四款		第五款	
甲症	乙症	甲症	乙症	甲症	乙症
一八九	一六二	一〇八	八二	五四	二七
一六八	一四四	九六	七二	四八	二四
一四七	一二六	八四	六三	四三	二二
一二六	一〇八	七二	五四	三六	一八
一一九	一〇二	六八	五二	三四	一七
一〇五	九〇	六〇	四五	三〇	一五
九八	八四	五六	四二	二八	一四
八四	七二	四八	三六	二四	一二

○海軍省達第五十號

吳海軍工廠ニ於テ製造ノ丑號裝甲巡洋艦ヲ生駒ト命名セラル

明治三十九年四月九日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第五十一號

艦艇類別等級別表中巡洋艦ノ欄一等ノ下「筑波」ノ次ニ「生駒」ヲ加フ

明治三十九年四月九日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第五十二號

艦艇類別等級別表中驅逐艦ノ欄内「響」ノ次ニ「胡露」ヲ加フ

明治三十九年四月十二日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第五十三號

海軍砲術練習所規則第二十二條中「四百名」ヲ「八百名」ニ海軍水雷術練習所規則第二十一條中「三百

名ヲ「六百名」ニ海軍機關術練習所規則第二十一條中「三百名」ヲ「三百五十名」ニ孰レモ改ム

明治三十九年四月十三日

海軍大臣齋藤實

〔參照〕

明治三十六年七月海軍省達第六十一號海軍砲術練習所規則第二十二條中四百名、同第六十二號海軍水雷術練習所規則第二十一條中三百名、及同第六十三號海軍機關術練習所規則中三百名ハ孰モ練習生ノ員數ナリ

○海軍省達第五十四號

海軍水雷術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十三日

海軍大臣齋藤實

第三條 海軍水雷術練習所ノ職員中所要ノ將校同相當官及准士官ハ宿直シ共ノ下士卒ハ所内ニ起臥スルモノトス

本達ハ明治三十九年四月一日ヨリ施行ス

〔參照〕

海軍省達第六十一號海軍砲術練習所規則(明治三十六年十二月七日)抄錄
第三條 海軍砲術練習所職員ハ所内(別註)ニ起臥スルモノトス

○海軍省達第五十五號

各艦艇兵器簿中大砲用空包ヲ削除ス

但霧中警戒用等ニ要スル空包ハ隨時供給スルコトヲ得

明治三十九年四月十三日

海軍大臣齋藤實

○海軍省達第五十六號

海軍艦隊下士卒教育規則中左ノ通追加ス

明治三十九年四月十七日

海軍大臣齋藤實

第三十八條中「各基本部」ノ下ニ「及下士卒ノ定員ヲ有スル學校練習所」ヲ加フ

○海軍省達第五十七號

明治二十八年十月第十七號海軍通常物品會計規程中左ノ通改正ス

明治三十九年四月十七日

海軍大臣齋藤實

第三條二項及第四條中「工場需品」ヲ削ル

第一號甲海軍通常物品類別表備考第一號中「及工場需品」ヲ削ル

○海軍省達第五十八號

刑ノ執行猶豫中ノ者海軍軍人軍屬ト爲リタル場合ニ於ケル取扱ニ關シ司法省ト協議ノ上左記ノ通決定候條此旨心得ヘシ

明治三十九年四月十九日

海軍大臣齋藤實

第一 刑ノ執行猶豫中ノ者陸海軍ノ軍人(現役軍人、召集中ノ軍人及陸軍ニ在リテハ志願ニ因リ國民軍編入中ノ者ヲ包含ス)又ハ軍屬ト爲リタルトキハ其ノ執行ヲ猶豫シタル裁判所ノ檢事ハ陸軍ニ在リテハ軍人ニ付テハ本籍地ノ師團長ニ、軍屬ニ付テハ其所屬長官ニ、其海軍ニ在リテハ在籍鎮守府又ハ所轄長ニ其ノ旨及部隊名ヲ通知ス

第二 猶豫中ノ陸海軍ノ軍人又ハ軍屬ニ猶豫取消ノ事由アルトキハ陸軍ニ在リテハ所屬長官ヨリ、海軍ニ在リテハ在籍鎮守府又ハ所轄長若ハ猶豫取消ノ事由ヲ知リタル軍法會議ノ主理ヨリ本人ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事局ニ通知ス

第三 猶豫中ノ陸海軍ノ軍人又ハ軍屬其ノ身分ヲ失ヒ現役ヲ終リ又ハ召集若ハ編入ヲ解除セラレタルトキハ陸軍ニ在リテハ所屬長官ヨリ、海軍ニ在リテハ在籍鎮守府又ハ所轄長ヨリ其ノ旨及ヒ住所ヲ執行ヲ猶豫シタル裁判所ノ檢事局ニ通知ス

第四 猶豫取消ノ決定確定シタルトキハ猶豫セラレタル刑ノ執行ハ陸軍監獄條例第一條又ハ海軍監獄官制第二條ニ規定シタル身分ヲ有スル場合ニ限り軍獄ニ於テ之ヲ爲ス

第五 猶豫セラレタル刑ノ執行ヲ軍獄ニ於テ爲ス場合ニ於テハ檢事ハ其ノ執行ヲ陸軍ニ在リテハ本人所在ノ地ノ陸軍監獄ヲ管轄スル師團長其ノ他ノ長官ニ、海軍ニ在リテハ在籍鎮守府又ハ所轄長ニ囑託ス

○海軍省達第五十九號
刑ノ執行猶豫中ノ者ニシテ海軍ノ軍人軍屬ト爲リタル場合ニ於ケル取扱手續左ノ通り定ム

明治三十九年四月十九日

海軍大臣齋藤實

第一 鎮守府司令長官ハ其ノ府在籍下士卒(現役又ハ召集中)ニシテ刑ノ執行猶豫中ノ者アル旨檢事ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ其ノ所轄長ニ通知スヘシ

所轄長檢事ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ在籍鎮守府ニ之ヲ通報スヘシ

所轄長ハ刑ノ執行猶豫中ノ者海軍軍屬ト爲リタル旨檢事ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ所屬長官ニ申報スヘシ

第二 刑ノ執行猶豫中ノ軍人、軍屬ニ猶豫取消ノ事由アルトキハ在籍鎮守府又ハ所轄長若ハ猶豫取消ノ事由ヲ知リタル海軍軍法會議主理人ハ之ヲ本人ノ所在地(若シ本人内地ニ在ラサルトキ又ハ所在不明ナルトキハ其ノ者ノ内地ニ於ケル最後ノ所在地)ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事局ニ

通知スヘシ

第三 刑ノ執行猶豫中ノ軍人軍屬其ノ身分ヲ失ヒ現役ヲ去リ又ハ召集ヲ解除セラレタルトキハ在籍鎮守府又ハ所轄長ハ其ノ旨及住所ヲ執行ヲ猶豫シタル裁判所ノ檢事局ニ通知スヘシ

第四 所轄長檢事ヨリ猶豫セラレタル刑ノ執行ノ囑託ヲ受ケタルトキハ執行ニ便宜ナル海軍監獄ヲ管轄スル長官ニ移牒スヘシ

鎮守府司令長官前項ノ囑託又ハ其ノ移牒ヲ受ケタルトキハ海軍監獄官制及海軍監獄ニ關スル規則ニ依リ海軍監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲サシムヘシ

○海軍省達第六十號
驅逐艦夕立外六隻ヘ左ノ通信號符字ヲ點付ス

明治三十九年四月二十四日

海軍大臣齋藤實

G Q W P	夕立	G Q W V	時雨
G Q W R	響	G Q B D	朝露
G Q W S	初雪	G Q B H	夕暮
G Q W T	白露		

○海軍省達第六十一號
三等筆記教育規則中左ノ通改ム
明治三十九年四月二十四日
海軍大臣齋藤實

第五條中ニ左ノ一項ヲ加ヘ別科中「武科(徒手教練)ヲ删除ス

九 武科